

なが おき こ ぶん ぐん
長 沖 古 墳 群 VIII
く ぼ ち く ちてん ちょうさ
— 久保地区C地点の調査 —

2008

本庄市遺跡調査会

序

埼玉県北部に位置する児玉地方は、県内でも有数の遺跡の宝庫として知られており、中でも現存する古墳の多さは県内随一とも言われております。今回報告する本庄市の児玉地域に所在する長沖古墳群も、児玉地方を代表する古墳群の一つで、埼玉県の重要遺跡に選定されています。この古墳群は、群内を児玉から秩父に向かう往還（現在の県道76号線）が貫いていることから、眼前に開けた広大な桑原の中に、大小様々な円丘があちらこちらに多数点在する景観が、古くから多くの人たちの注意を引いたようです。

このようなのどかな田園風景の中にあつた当古墳群も、畑の開墾を主とする開発によって多くの古墳が消滅し、近年では環状1号線の開通や児玉南土地区画整理事業などに伴って急速に宅地化が進行し、住宅・工場・店舗などの間に古墳が埋没するような景観に刻々と変化しています。

本書は、平成17年に株式会社コメリの店舗建設に伴う記録保存のために実施した、埼玉県選定重要遺跡の長沖古墳群内に位置する久保地区C地点の発掘調査の成果を記録したものです。発掘調査は、比較的小規模なものではありましたが、これまでに未確認の古墳跡が検出されるなど、大きな成果をあげることができました。

本書が、研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護や遺跡に対する理解のための一助として、多くの方々にご活用いただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書刊行にいたるまで、文化財の保護に対する深いご理解とご尽力を賜りました株式会社コメリをはじめ、ご教示やご協力をいただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

平成20年 5月 7日

本庄市遺跡調査会
会長 茂木 孝彦



「秩父地方に於ける人類学的旅行」『東京人類学会雑誌』第10巻第110号(明治28年5月)掲載の長沖古墳群のスケッチ

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市児玉町長沖字久保284番地他に所在する、長沖古墳群久保地区C地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社コメリの店舗建設に伴う事前の記録保存を目的として、平成17年9月26日から11月26日の期間に実施した。
3. 発掘調査は、業務委託を受けた旧児玉町遺跡調査会が実施し、その調査担当には尾内俊彦と松澤浩一があたった。
4. 発掘調査から本書刊行に至る経費は、すべて株式会社コメリが負担した。
5. 本書の執筆及び編集は、恋河内昭彦が行った。
6. 第5図と第6図のXY座標値及び抄録中の北緯・東経の数値は、世界測地系によるものである。
7. 本書中で使用した地図は、国土地理院発行の五万分の一(平成2年発行)・二万五千分の一(平成5年発行)と、旧児玉町発行の二千五百分の一(平成4年発行)である。
8. 第192号墳出土遺物のうち、第15図No40の翳形埴輪の実測と写真撮影(図版14)及び観察は、長井正欣氏によるものである。
9. 本書中の遺物観察表に帰した記号は、以下のとおりである。
A－法量、B－成形、C－整形・調整、D－胎土、E－色調、
F－残存度、G－出土位置、H－備考
10. 発掘調査から本書刊行にあたって、下記の方々や機関からご教示・ご協力を賜った。記して感謝します。

赤熊 浩一、有山 径世、大谷 徹 金子 彰男、駒宮 史朗、
坂本 和俊、篠崎 潔、外尾 常人、田中 広明、田村 誠、
富田 和夫、中沢 良一、長井 正欣、長滝 歳康、丸山 修、
矢内 勲

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、埼玉県埋蔵文化財
調査事業団 (有)毛野考古学研究所

長沖古墳群久保地区C地点発掘調査組織

旧児玉町遺跡調査会（平成17年度）

会 長	雉岡 茂	児玉町教育委員会教育長
理 事	清水 守雄	児玉町文化財保護審議委員長
	桜井 豊	児玉町文化財保護審議副委員長
	富丘 文雄	児玉町文化財保護審議委員
	福島 敏朗	〃
	立花 勲	児玉町総務課長
	岩上 高男	〃 農林商工課長
	鈴木幸比古	〃 土木課長
	福島 秀雄	〃 都市計画課長
	笠原 義晴	児玉町教育委員会社会教育課長
監 事	間正 明彦	児玉町文化財保護審議委員
	山中今朝男	児玉町総合政策課長
幹 事	倉林 益	児玉町教育委員会社会教育課長補佐
	鈴木 徳雄	〃 社会教育課長補佐
	恋河内昭彦	〃 文化財係長
	徳山 寿樹	〃 文化財係主任
	大熊 季広	〃 文化財係主事
	松澤 浩一	〃 文化財係主事（調査担当）
調査員	尾内 俊彦	児玉町遺跡調査会職員（調査担当）

長沖古墳群久保地区C地点整理・報告書刊行組織

本庄市遺跡調査会（平成20年度）

会 長	茂木 孝彦	本庄市教育委員会教育長
理 事	清水 守雄	本庄市文化財保護審議委員
	佐々木幹雄	〃
	丸山 茂	本庄市教育委員会事務局長（会長代理）
監 事	八木 茂	本庄市監査委員担当副参事
	小谷野 博	参事兼会計課長
幹 事	儘田 英夫	本庄市教育委員会文化財保護課長（事務局長）
	鈴木 徳雄	〃 課長補佐兼文化財保護係長
	太田 博之	〃 埋蔵文化財係長
	恋河内昭彦	〃 埋蔵文化財係主査
	大熊 季広	〃 埋蔵文化財係主任
	松澤 浩一	〃 埋蔵文化財係主任
	松本 完	〃 埋蔵文化財係主事
	的野 善行	〃 臨時職員
調査員	尾内 俊彦	本庄市遺跡調査会 職員

目 次

序

例 言

目 次

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯 1

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境 3

第Ⅲ章 遺跡の概要 5

第Ⅳ章 検出された遺構と遺物 7

第1節 古墳周溝跡 7

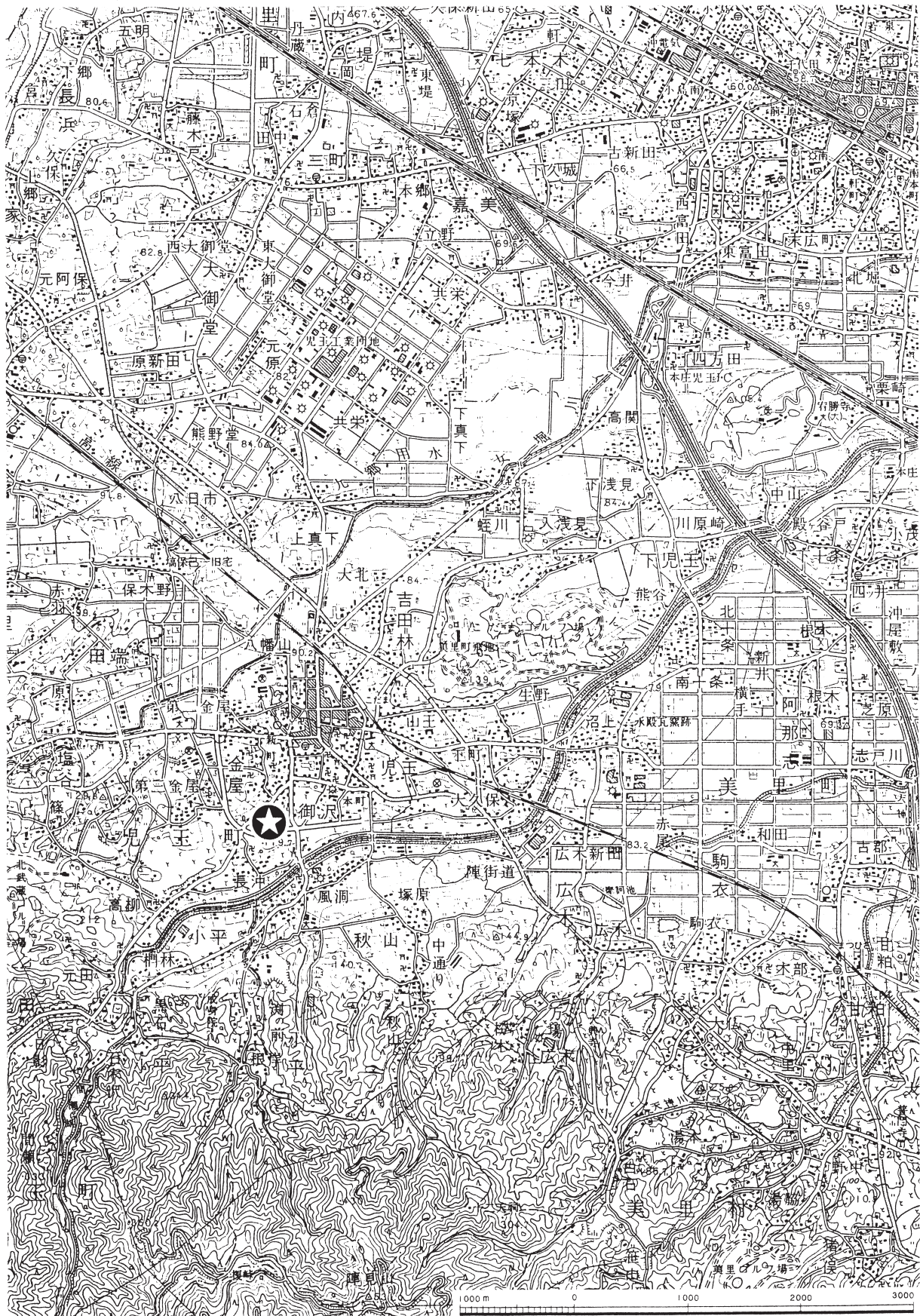
第2節 溝 跡 16

第Ⅴ章 ま と め 20

<参考文献> 20

写 真 図 版

報 告 書 抄 録



第1図 遺跡の位置

第 I 章 発掘調査に至る経緯

平成16年8月9日、埼玉県児玉郡児玉町大字長沖(現本庄市児玉町長沖)字久保284他に、株式会社コメリの店舗建設を予定している施工責任者の株式会社エルアンドビー代表取締役江原久義より、開発予定地内にかかる埋蔵文化財の所在とその取り扱いについて、児玉町教育委員会に照会があった。

照会のあった開発予定地は、『遺跡分布地図』と照合したところ、埼玉県選定重要遺跡である長沖古墳群(N54-300)の範囲内に位置し、その中には墳丘が現存する長沖62号墳と長沖64号墳が所在していた。そのため、現存する長沖62号墳と長沖64号墳は開発予定地から除外し、他の場所も現状変更しようとする場合は、埋蔵文化財の包蔵状況を確認するための試掘調査を実施し、その埋蔵深度や性格等を把握する必要があることを回答した。

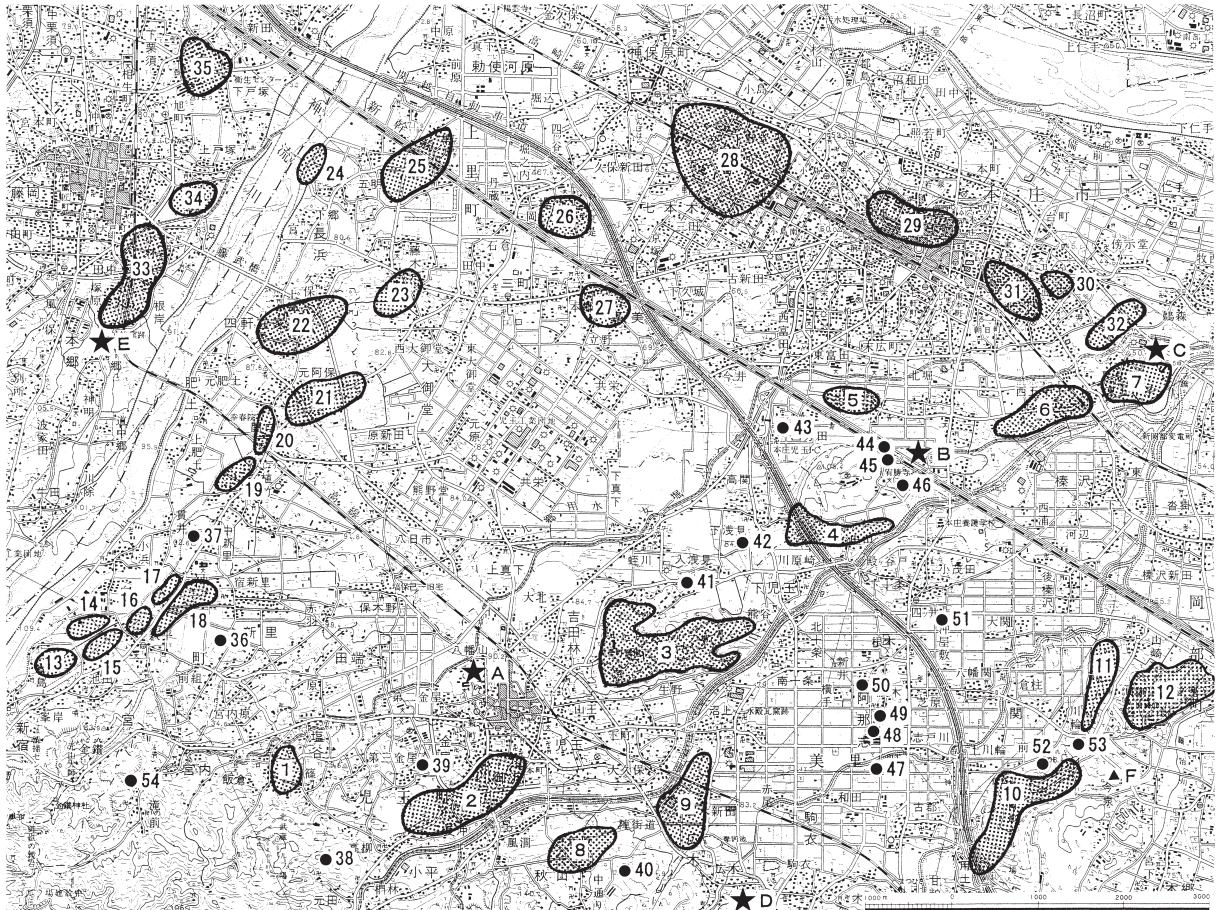
その後、現地の試掘調査を児玉町教育委員会が実施したところ、開発予定地内のほぼ全域から古墳の周溝や溝等の遺構が多く検出された。そのため、この試掘調査の結果に基づいて、「現状変更を実施する場合は、事前に町教育委員会と施工方法、施工時期等について連絡調整し、文化財保護法の規定に則って事業を実施することが必要である」ことを回答した。そして、建物の配置や施工方法について検討したところ、長沖62号墳と長沖64号墳については開発予定地から除外し、店舗部分については設計変更により保護層を確保することで保存することになり、掘削により埋蔵文化財の破壊が避けられないと考えられる貯留浸透施設と灯油埋設タンクの部分については、事前に記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。そして、埼玉県教育委員会にこの協議結果を報告し、合わせて意見を求めた。

以上の協議を踏まえて、埼玉県教育委員会の指示を受けた児玉町教育委員会の指導のもと、平成17年9月26日に株式会社コメリ代表取締役捧雄一郎と児玉町遺跡調査会会長雉岡茂の間で、埋蔵文化財保存事業の委託契約が締結され、開発予定地内における記録保存のための発掘調査を実施することになった。そして、発掘調査地点を長沖古墳群久保地区C地点と命名した。

発掘を実施するにあたっては、平成17年7月26日付けで株式会社コメリ代表取締役捧雄一郎より、文化財保護法第57条の2第1項、同99条第1項及び文化財保護法施行令第5条の規定による「埋蔵文化財発掘の届出について」が児玉町教育委員会を経て、埼玉県教育委員会に提出された。これに対して埼玉県教育委員会からは、平成17年10月20日付け教文第3-543号による「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が、株式会社コメリ代表取締役捧雄一郎に通知され、土木工事等の着工前における発掘調査の実施が指示された。

発掘調査を実施するにあたっては、平成17年7月26日に児玉町遺跡調査会会長雉岡茂より、文化財保護法第57条第1項、同99条第1項及び文化財保護法施行令第5条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が児玉町教育委員会を経て、埼玉県教育委員会に提出された。これに対して埼玉県教育委員会からは、平成17年10月20日付け教文2-71号による「埋蔵文化財発掘調査について」が児玉町遺跡調査会会長雉岡茂に通知され、発掘調査は文化財保護法の趣旨を尊重し、慎重に実施するように指示された。

なお、長沖古墳群久保地区C地点の発掘調査は、平成17年9月26日から同年11月15日の約1ヵ月の期間を要して実施された。
(本庄市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係)



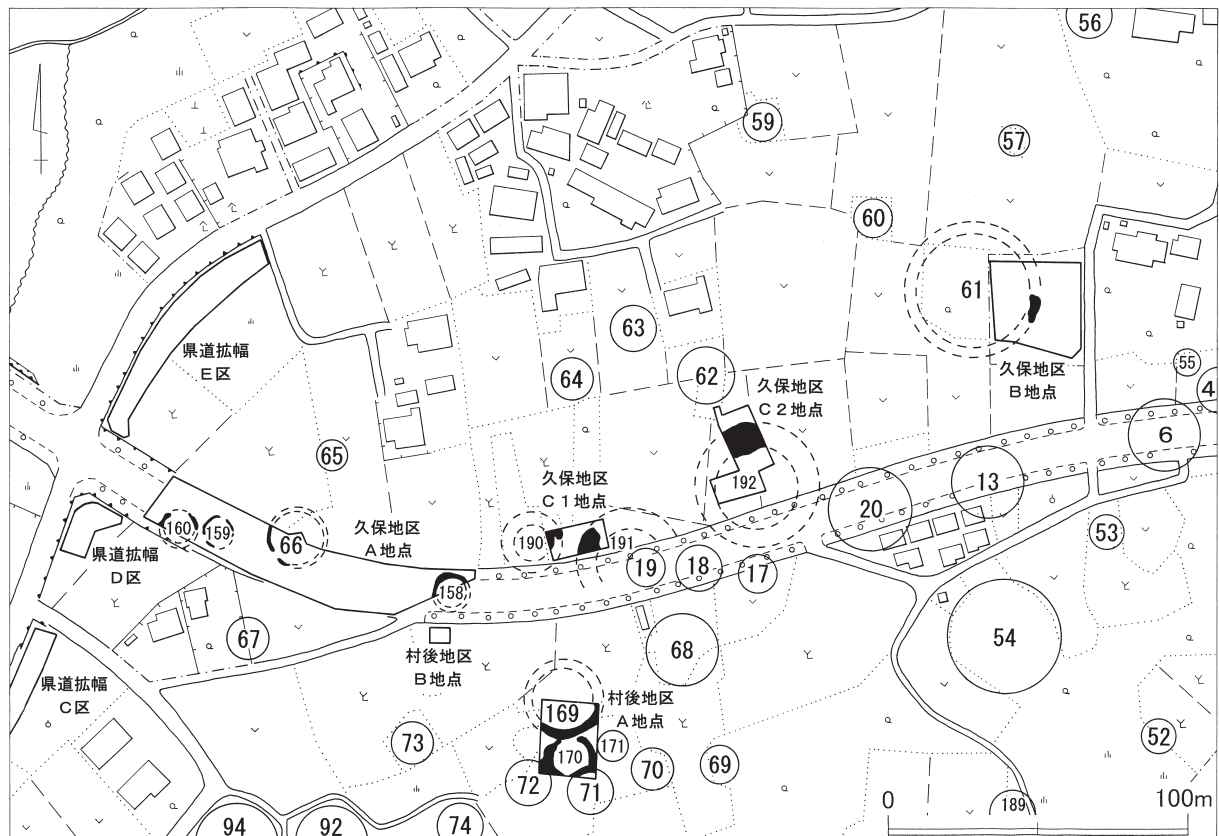
第2図 児玉地方の古墳関連遺跡

1. 飯倉古墳群 2. 長沖古墳群 3. 生野山古墳群 4. 塚本山古墳群 5. 東富田古墳群 6. 西五十子古墳群 7. 東五十子古墳群 8. 秋山古墳群 9. 広木大町古墳群 10. 諏訪山古墳群 11. 西山古墳群 12. 山崎山古墳群 13. 青柳古墳群城戸野支群 14. 青柳古墳群海老ヶ久保支群 15. 青柳古墳群十二ヶ谷戸支群 16. 青柳古墳群二ノ宮支群 17. 青柳古墳群北塚原支群 18. 青柳古墳群南塚原支群 19. 青柳古墳群植竹支群 20. 青柳古墳群関口支群 21. 青柳古墳群元阿保支群 22. 青柳古墳群四軒在家支群 23. 大御堂古墳群 24. 下郷古墳群 25. 帯刀古墳群 26. 東堤古墳群 27. 本郷古墳群 28. 旭・小島古墳群 29. 北原古墳群 30. 御堂坂古墳群 31. 落合古墳群 32. 鶺森古墳群 33. 小林古墳群 34. 戸塚古墳群 35. 野見塚古墳群 36. 白岩銚子塚古墳 37. 中新里諏訪山古墳 38. 高柳日向山古墳 39. 長沖157号墳 40. 秋山諏訪山古墳 41. 金鑽神社古墳 42. 鷺山古墳 43. 四方田古墳 44. 前山2号墳 45. 前山1号墳 46. 東谷古墳 47. 志渡川古墳 48. 道灌山古墳 49. 勝山稻荷山古墳 50. 堂山古墳 51. 日の森1・2号墳 52. 長坂聖天塚古墳 53. 河輪聖天塚古墳 54. 宮内古墳群
- A. 八幡山埴輪窯跡 B. 宥勝寺裏埴輪窯跡 C. 赤坂埴輪窯跡 D. 宇佐久保埴輪窯跡 E. 本郷埴輪窯跡 F. 今泉祭祀遺跡

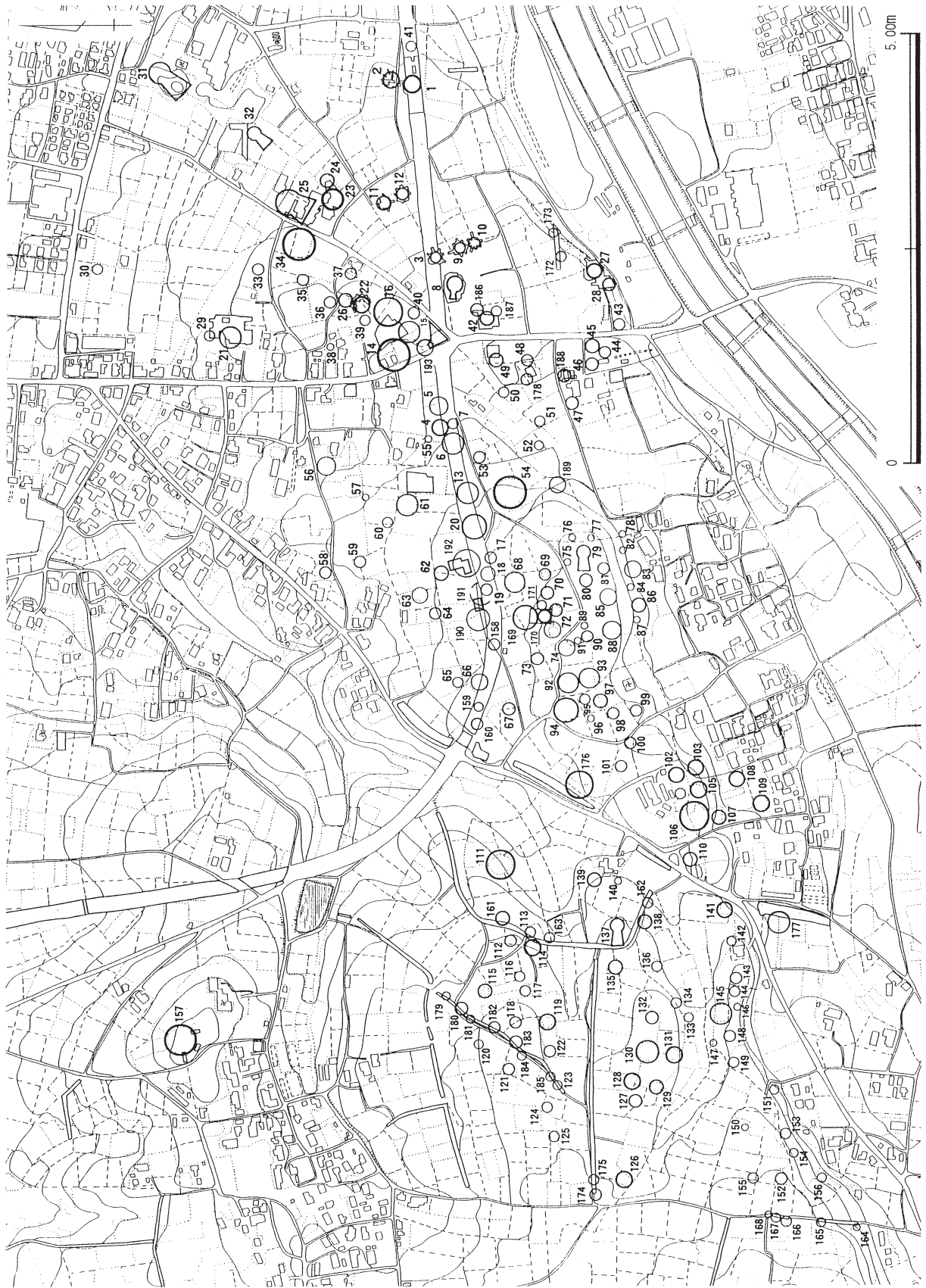
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

本遺跡は、JR八高線の児玉駅から南西側に約800mの本庄市児玉町長沖から金屋・高柳の一部にかけてあり、小山川(旧身馴川)に沿った河岸段丘上の児玉丘陵の先端付近から低台地下の沓瀬源近くまで、古墳が帯状に分布している。

児玉地方は、古くから古墳の多い地域として有名であるが、周辺では古墳時代前期に全長60mの前方後方墳の鷲山古墳と前期末の前方後円墳の可能性がある前山1号墳、中期では前半に前山2号墳や物見塚古墳、中葉に直径60m級の円墳で格子目叩き調整の円筒埴輪をもつ生野山将軍塚古墳・金鑽神社古墳・公卿塚古墳などが残丘上を主体に単独的に築造され、後半には直径40m以下の円墳でB種ヨコハケ調整の円筒埴輪をもつ長沖157号墳・長沖14号墳・生野山9号墳・塚本山W45号墳・三壺山2号墳・上前原5号墳・本庄東小学校1・2号墳などが、後の各古墳群中に築造されはじめる。6世紀になると当地域の首長墓級の古墳は、小規模ながら前方後円墳の墳形を採用するようになり、同時に古墳群中に小円墳も多く作られ、7世紀にかけて多くが大規模群集墳化する。当地域の古墳群は、主要河川に沿って列状に並んで分布する特徴が見られ、西から青柳古墳群(城戸野・海老ヶ久保・十二ヶ谷戸・二の宮・南塚原・北塚原・植竹・関口・元阿保・四軒在家)・大御堂古墳群・帯刀古墳群などの神流川に沿って並ぶ古墳群列、旭・小島古墳群・北原古墳群・塚合古墳群・御堂坂古墳群・鶴森古墳群などの利根川に沿った段丘上に並ぶ古墳群列、長沖古墳群、生野山古墳群・塚本山古墳群・西五十子古墳群・東五十子古墳群などの小山川に沿って並ぶ古墳群列などがある。



第3図 調査区周辺の古墳分布

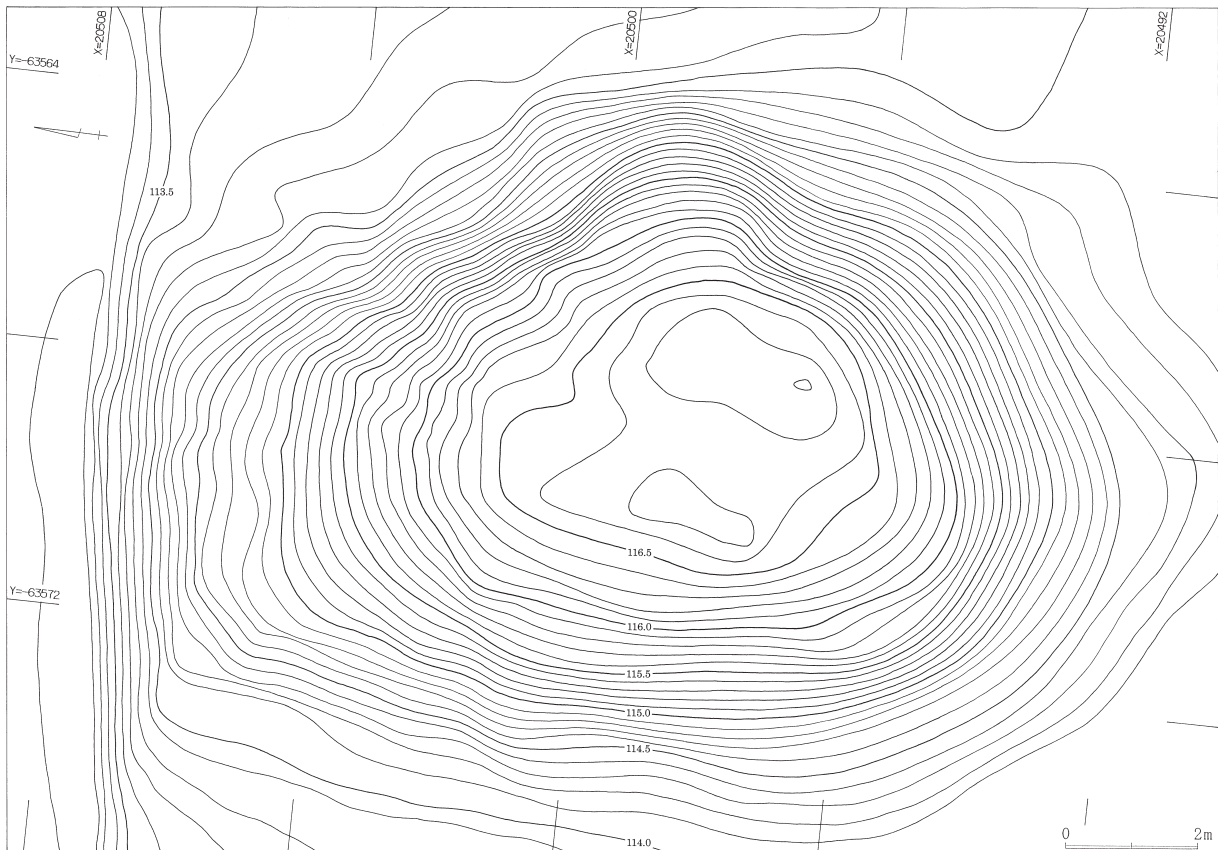


第4図 長沖古墳群古墳分布図

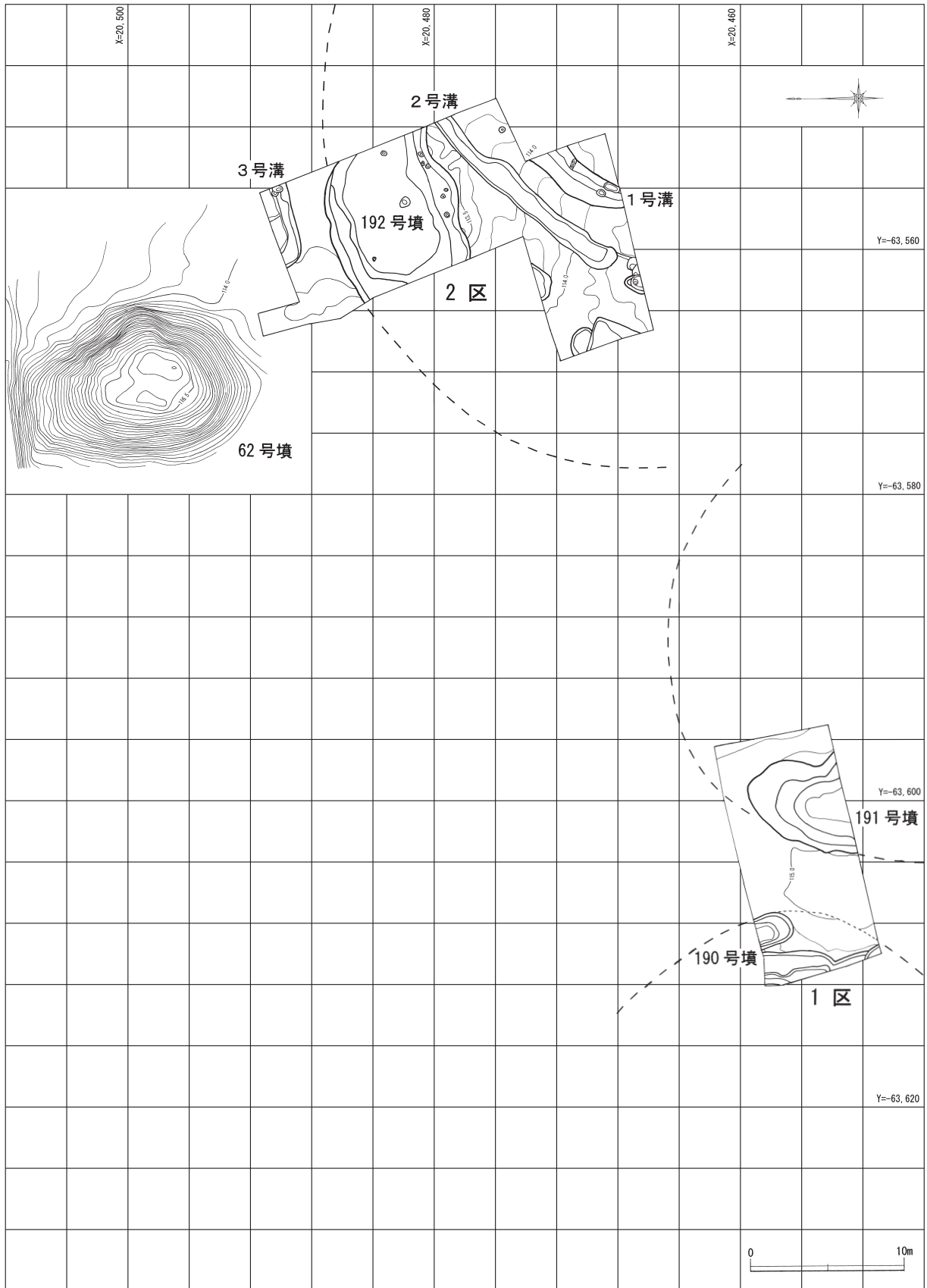
第三章 遺跡の概要

長沖古墳群は、本庄市児玉町長沖から金屋・高柳の一部にかけて所在し、女堀川上流域南端の小山川(旧身馴川)に沿った標高125mの児玉丘陵先端部付近から標高102mの低台地下まで、東西約1700m・南北約500mの帯状の範囲に分布している。古墳は、墳丘が現存しているもののほか、伝承や発掘調査によって周溝跡だけが検出されたものも含めて、現在までに193基が確認されている(第4図)。これらの古墳群は、県道76号線(児玉金沢秩父線)に沿って丘陵内に深く湾入する谷によって地形的に東西に二分され、西側を「高柳支群」、東側を「長沖支群」と呼称されている。この両支群内には、小規模な谷が幾筋も入り込んでおり、さらに複数の小支群に分けることが可能である。

長沖古墳群の形成は、前期古墳は確認されていないが、5世紀後半には高柳支群では北側に単独で立地する第157号墳(谷井1991)、長沖支群では東側に位置する第14号墳(菅谷他1980)が築造されている。この両古墳は、いずれもB種ヨコハケ調整の円筒埴輪をもつ30m級の円墳である。6世紀になると、首長墓級の古墳は20m～40m級の小規模な前方後円墳が6～7基作られる。その大半は長沖支群にあり、北東側台地先端付近の第31号墳・第32号墳(恋河内・大熊2006)・第25号墳(菅谷他1980)、東側台地上の第8号墳(菅谷他1980)、西側丘陵先端付近の第79号墳(十兵衛塚古墳：金子他1975)、西端の第110号墳の3～4グループに分かれる。高柳支群は、現在までのところ中央付近の第137号墳の1基が確認されているだけである。その後、6世紀後半～7世紀代にかけて、古墳群内には河床礫の片岩を使用した模様積みの両袖型横穴式石室をもつ小円墳が多数作られ大規模群集墳化するようになる。



第5図 長沖62号墳墳丘等高線図



第6図 長沖古墳群久保地区C地点調査区全体図

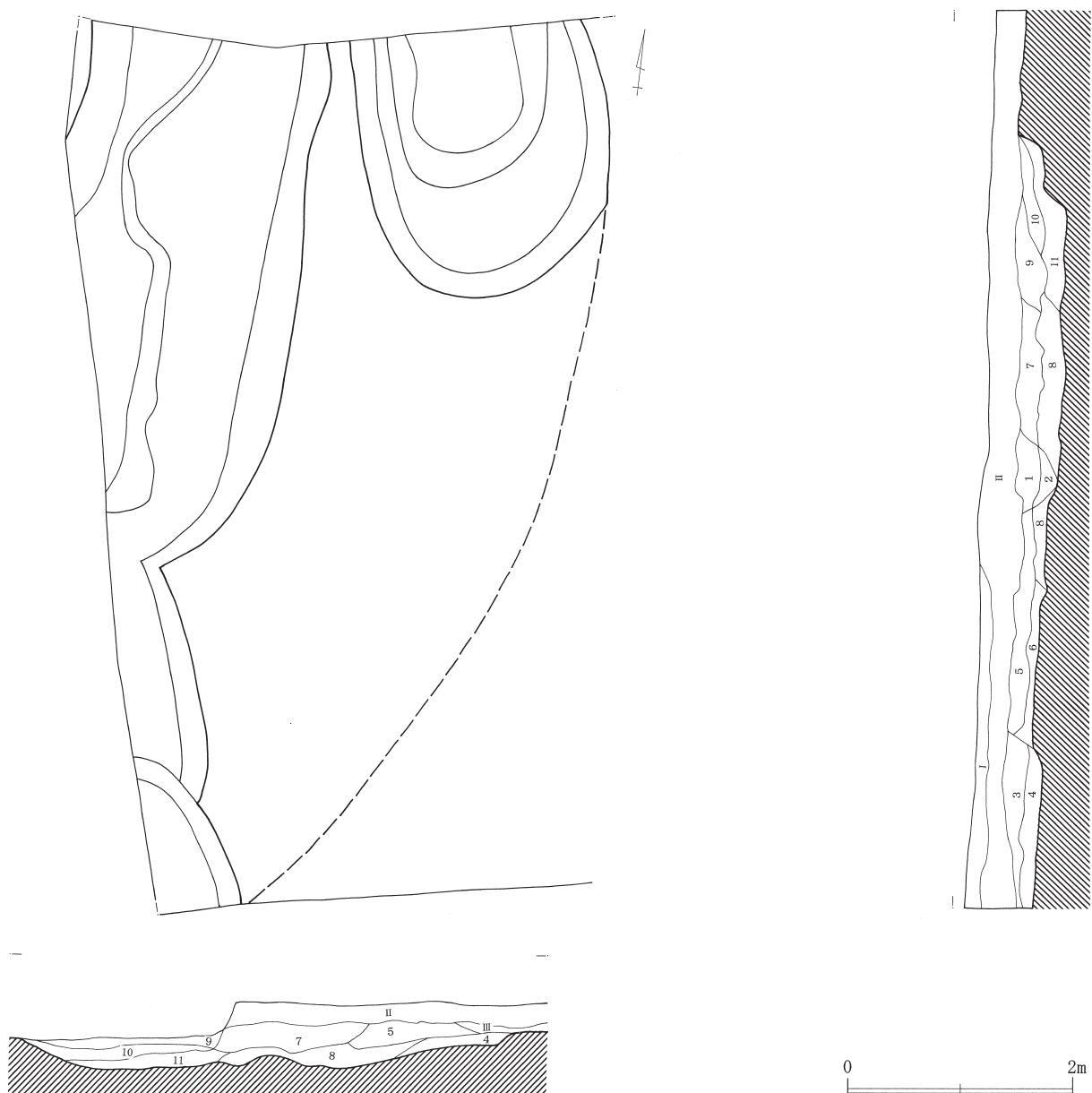
第IV章 検出された遺構と遺物

第1節 古墳周遺跡

第190号墳周溝跡(第7図、図版3)

C地点1区の西側に位置する。周辺には、西側のA地点で周溝跡の一部が検出された第158号墳が、東側には第191号墳が近接しており、北側には墳丘が現存する第64号墳がある。

調査区内では、周溝跡の一部が検出されただけであるため、古墳自体の形態や規模等は不明であるが、調査区内では周溝跡が緩やかに湾曲した形態をとっており、それから推測すると周溝の西側調査区外に墳丘があったものと思われる。周溝は、調査区西端の墳丘側に幅2m前後・確認面からの深さが27cm程度の比較的均一な形態の掘り込みが見られるが、その外側にあたる東側には部分的に浅い



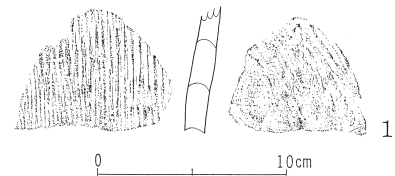
第7図 第190号墳周溝跡

第190号墳周溝跡土層説明

- 第1層：灰褐色土層（As-Aを多量に、径1mmのマンガン粒子・径3mmのマンガン小ブロックをまばらに含む。しまり、粘性ともにやや弱い。現耕作土。）
- 第Ⅱ層：暗茶褐色土層（径1mmのマンガン粒子を均一に、径3mmのマンガン小ブロックをまばらに、As-A、径5mmの小石、埴輪片を含む。しまり、粘性ともにやや弱い。）
- 第1層：黒灰色土層（径1mmのローム粒子を均一に、径5mmのローム小ブロック、径3mmのマンガン小ブロックをまばらに、As-Aを微量含む。褐色土が多量に混入している。しまりはやや弱い、粘性あり。）
- 第2層：灰褐色土層（ローム粒子を均一、径6mmのロームブロックをまばらに含む。しまりは弱い、粘性はやや強い。）
- 第3層：暗褐色土層（黒灰色土の混入が認められる。径2mmのマンガン粒子を均一に、径2mmのローム粒子、径3mmのローム小ブロックをまばらに含む。しまりはやや弱い、粘性は強い。）
- 第4層：褐色土層（黒灰色土の混入が少量認められる。径2mmのローム粒子を均一に、径2cmのロームブロックを多量、白色粒子・径1mmのマンガン粒子を少量含む。しまり、粘性ともに強い。）
- 第5層：褐色土層（黒灰色土の混入が多量に認められる。径2mmのローム粒子を均一に、径2mmのマンガン粒子、径5mmのロームブロックをまばらに、径2mmの焼土粒子を微量含む。しまりは弱い、粘性は強い。）
- 第6層：茶褐色土層（黒灰色土の混入あり。径2mmのローム粒子を多量に、径3mmのローム小ブロックを均一に、径5mmのロームブロックを少量含む。しまり、粘性ともに強い。）
- 第7層：暗褐色土層（径2mmのローム粒子を均一に、径2mmのマンガン粒子、径2mmの焼土粒子、径3mmのローム小ブロックを微量含む。しまりはやや弱い、粘性は強い。）
- 第8層：茶褐色土層（径2mmのローム粒子を非常に多く、径3mmのローム小ブロックを均一に、径5mmと1cmのロームブロックをまばらに含む。黒灰色土が少量混入する。しまり、粘性ともに強い。）
- 第9層：灰褐色土層（径2mmのローム粒子とマンガン粒子を均一に、径3mmのローム小ブロックとマンガン小ブロック、径5mmのロームブロックをまばらに含む。）
- 第10層：暗褐色土層（径2mmのローム粒子を均一に、径5mmのロームブロックと径3mmのマンガン小ブロックをまばらに、径3mmの小石及びローム小ブロックを少量含む。しまりは弱い、粘性は強い。）
- 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を主体に、径2cmのロームブロック及び黒灰色土と径2mmのマンガン粒子を少量、径3～5mmのローム小ブロックをかなり多く、径1cmのロームブロックをまばらに、径3mmのマンガン小ブロックを微量含む。しまり、粘性ともに強い。）

掘り込みがあり、周溝外側の上半には不規則的に浅い掘り込みが広がる拡張部分を伴っていた可能性もある。覆土は、ローム粒子やマンガン塊を含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、周溝の覆土中から円筒埴輪と思われる埴輪の破片が1片出土しただけである。



第8図 第190号墳出土遺物

第190号墳出土遺物観察表

1	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面縦ハケ。内面ナデの後ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 破片。H. 覆土中。
---	------	--

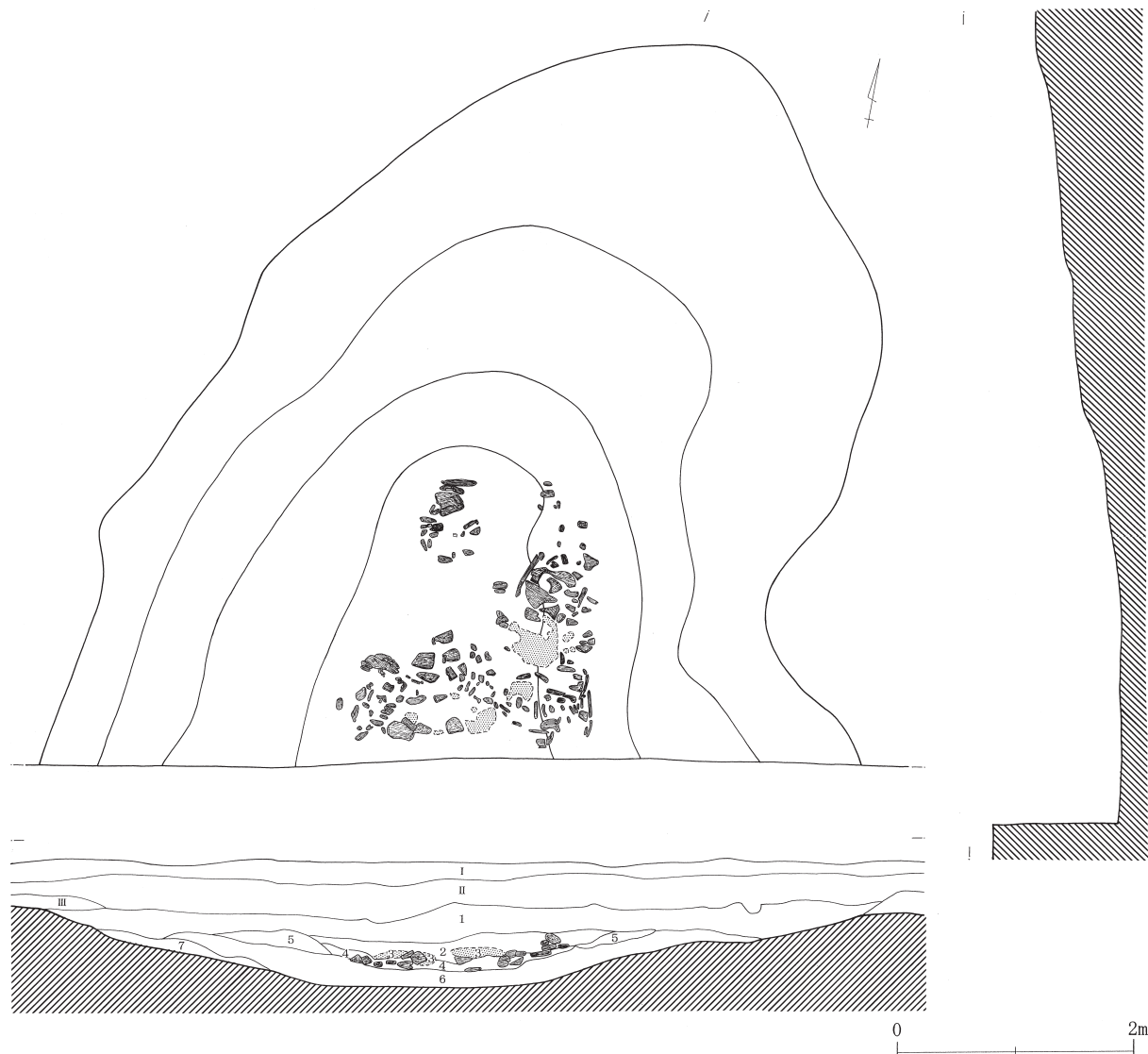
第191号墳周溝跡(第9図、図版4)

C地点1区の東側に位置する。周辺には、西側に第190号墳が、東側に第192号墳が近接しており、北側には墳丘が現存する第62～64号墳がある。また、南側の環状線道路敷地内には第18号墳と第19号墳が近接して所在していたようであり、未報告のため詳細は不明であるが、あるいは本周溝跡は第19号墳と関係する可能性もある。

調査区内では、周溝跡の一部が検出されただけであるため、古墳自体の形態や規模等は不明であるが、周溝跡の北端が若干東側へ緩やかに湾曲した形態であることから、周溝の東側に墳丘があったものと思われる。周溝は、調査区内で最大幅7m、確認面からの深さが最深で55cmあり、北東側に向かって幅が狭まり徐々に浅くなって途切れている。壁は、内外とも比較的緩やかである。覆土は、黒褐色土を主体とし、覆土下半の第6層上面からは多量の焼土と炭化材が出土している。焼土は厚さ

10cm程度で面的に分布しており、炭化材は小さくなった小枝状のものが主体である。おそらく、これらの焼土と炭化材は、周溝内で焼いたものがそのまま遺存したと思われる。

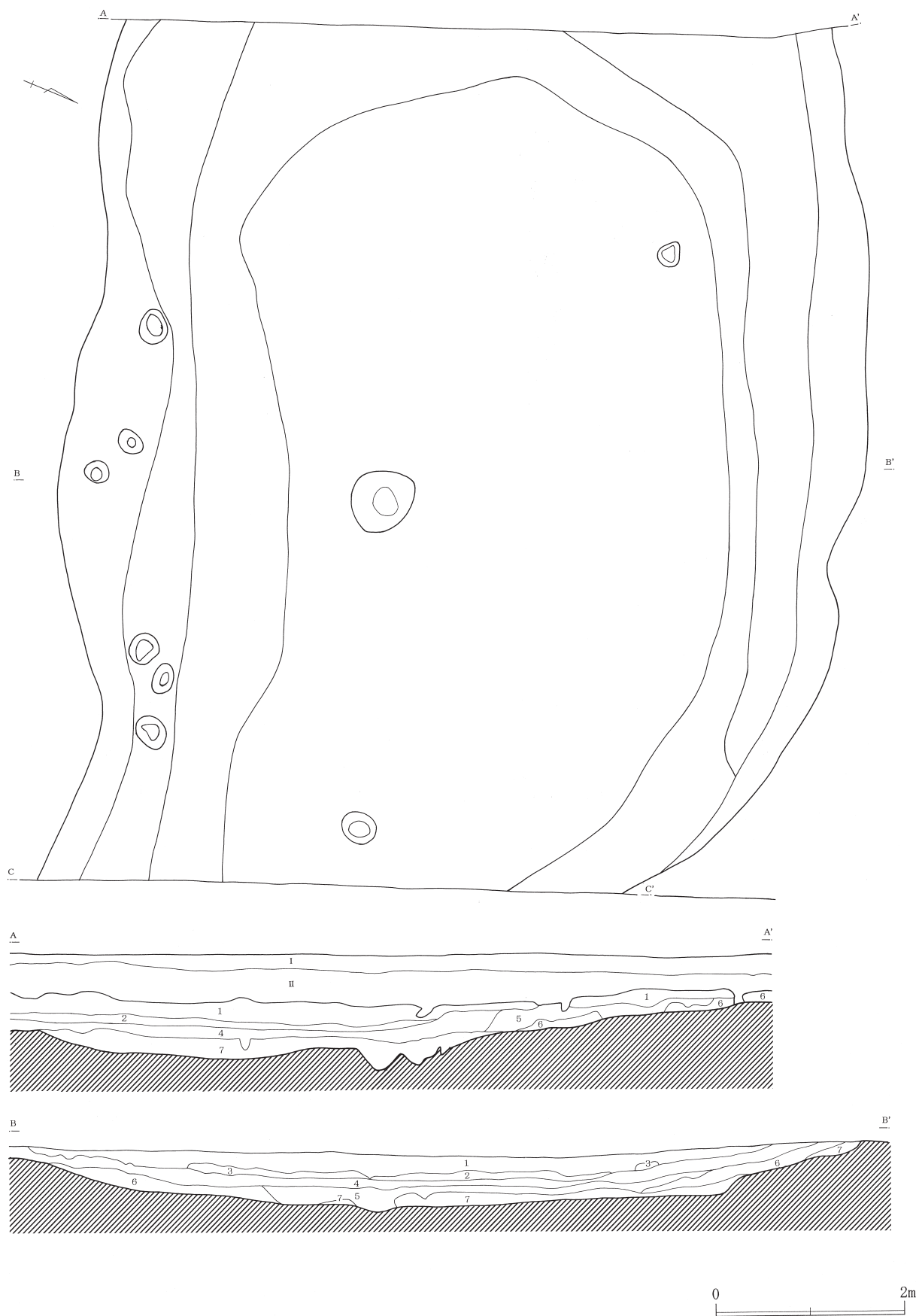
出土遺物は、非常に少なく、覆土上半から埴輪の小片と古墳時代前期の小形丸底壺や高坏と思われる土器の小破片が数片出土しただけである。



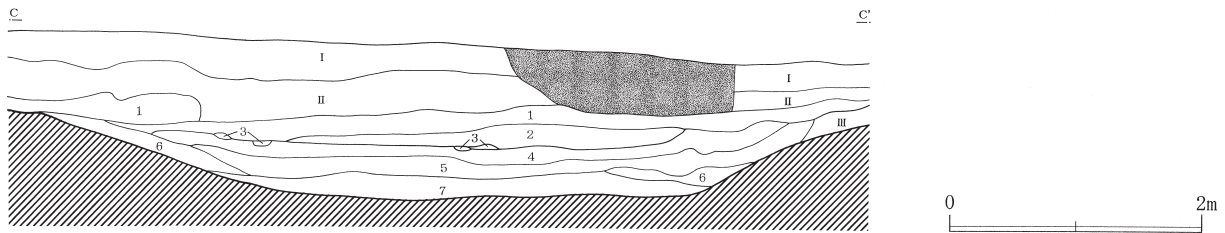
第9図 第191号墳周溝跡

第191号墳周溝跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（径3～5cmの黒褐色土ブロック、径3mmのローム小ブロックをまばらに、径2mmのマンガン粒子・焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性ともに強い。）
- 第2層：暗褐色土層（径2mmの焼土粒子を均一に、径2mmの炭化物粒子をやや多く、径3mmの焼土小ブロックをまばらに、ローム粒子を含む。しまりやや弱く、粘性は非常に強い。）
- 第3層：赤褐色土層（焼土ブロックを主体とし、マンガン粒子を均一に、径3mmの焼土小ブロックを少量、炭化物粒子を含む。しまり、粘性ともに強い。）
- 第4層：暗褐色土層（炭化物を主体とし、径4mmのマンガン粒子、径1.5mmの焼土粒子を均一に、径5mmの焼土ブロックを若干含む。しまりはやや弱い、粘性は強い。）
- 第5層：黒褐色土層（径2mmのマンガン小ブロックをまばらに、径2mmのローム粒子を少量、径2mmの焼土粒子と炭化物粒子を微量含む。しまりはやや弱い、粘性は強い。）
- 第6層：黒褐色土層（径3mmの焼土小ブロックをまばらに、径3mmの炭化物の小ブロックと径2mmのマンガン粒子を均一に含む。しまり、粘性やや強い。）
- 第7層：黒褐色土層（径3mmのローム小ブロックをまばらに、径1.5mmのローム粒子を均一、径2mmのマンガン粒子をやや多く含む。しまり、粘性やや強い。）



第10图 第192号墳周溝跡（1）



第11図 第192号墳周溝跡（2）

第192号墳周溝跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（灰褐色粒子、径2mmのマンガン粒子をやや多く、径3mmのマンガン小ブロックを均一に、径5mmの灰褐色ブロックをまばらに含む。しまりはやや弱いが、粘性は強い。）
- 第2層：黒褐色土層（灰褐色土粒子を多く、マンガン粒子をまばらに、径3mmのマンガン小ブロックを少量含む。しまりやや弱いが、粘性強い。）
- 第3層：明褐色土層（砂粒を均一に含む。しまり、粘性ともに強い。）
- 第4層：黒褐色土層（径2mmの褐色土粒子を少量、径2mmのマンガン粒子を均一、径5mmのマンガン小ブロックをまばらに含む。しまりやや弱く、粘性強い。）
- 第5層：黒褐色土層（径2mmのマンガン粒子を均一に、径1cmのマンガンブロックをまばらに、褐色粒子を少量含む。）
- 第6層：茶褐色土層（径2mmのマンガン粒子と径3mmのマンガン小ブロックを均一に、ローム粒子と径5mmのマンガンブロックを少量含む。しまり、粘性ともに強い。）
- 第7層：黄灰色土層（マンガンの堆積層。黒褐色土と褐色土を含む層。径1cmのマンガンブロックを多量、径2mmのマンガン粒子を少量含む。しまり、粘性ともに強い。）

第192号墳周溝跡(第10・11図、図版5)

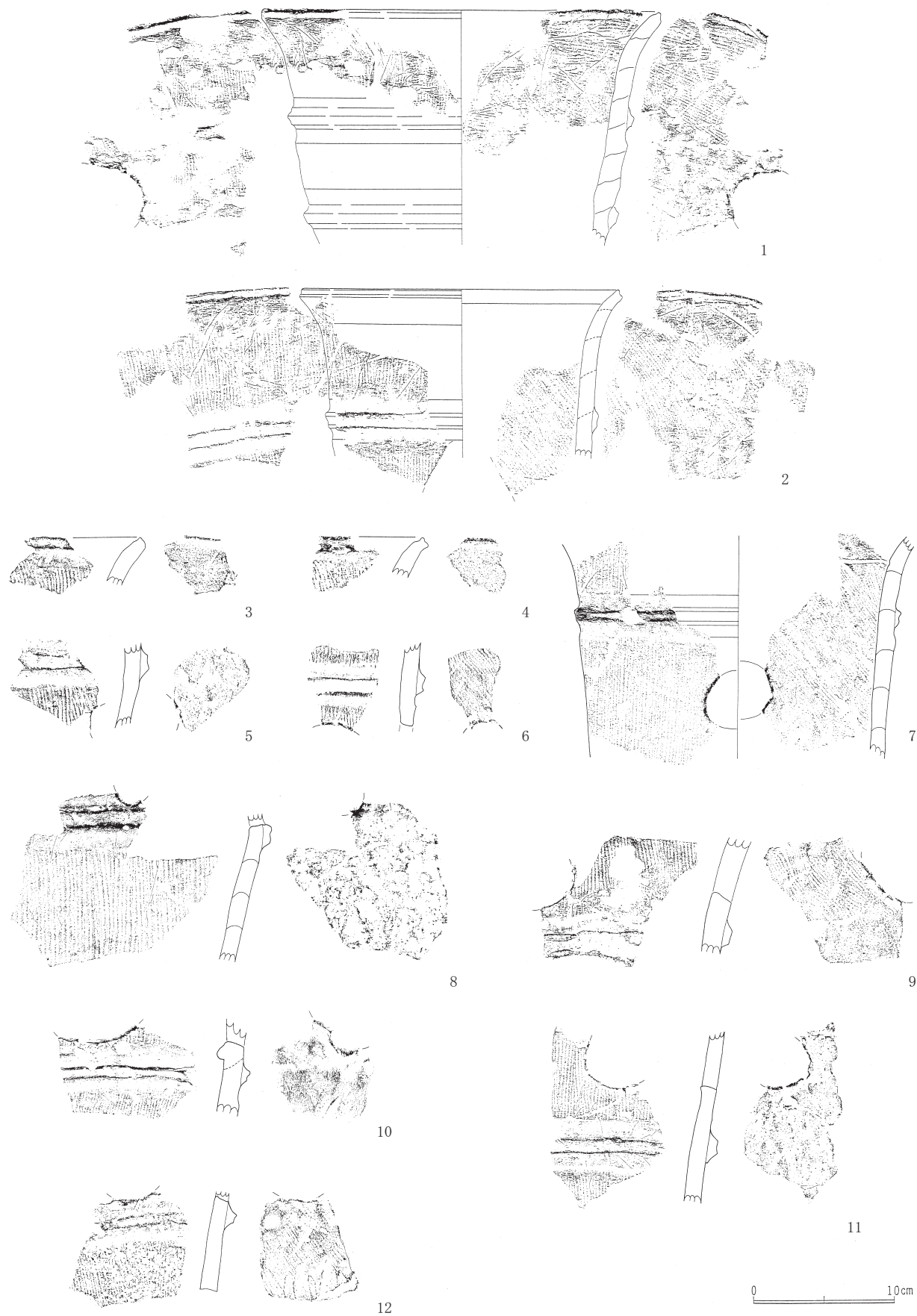
C地点2区の北側に位置する。周辺には、西側に第191号墳、東側に第20号墳、南側に第17号墳と第18号墳が近接しており、北側には墳丘が現存する第62号墳がある。

調査区内では、周溝跡の一部が検出されただけであるため、古墳自体の形態や規模等は不明であるが、周溝跡の東西両端が若干南側へ緩やかに湾曲しており、また南側の第1号溝跡と第2号溝跡が同心円状の形態になる可能性が高いことから、本墳は周溝の南側に墳丘があったものと思われる。周溝は、調査区内で最大幅8.5m、確認面からの深さが最深で65cmある。周溝の底面は、比較的広く平坦であるが、西側に向かって徐々に浅くなっており、西側調査区外で途切れている可能性もある。壁は、内外とも比較的緩やかである。覆土は、黒褐色土を主体にしている。

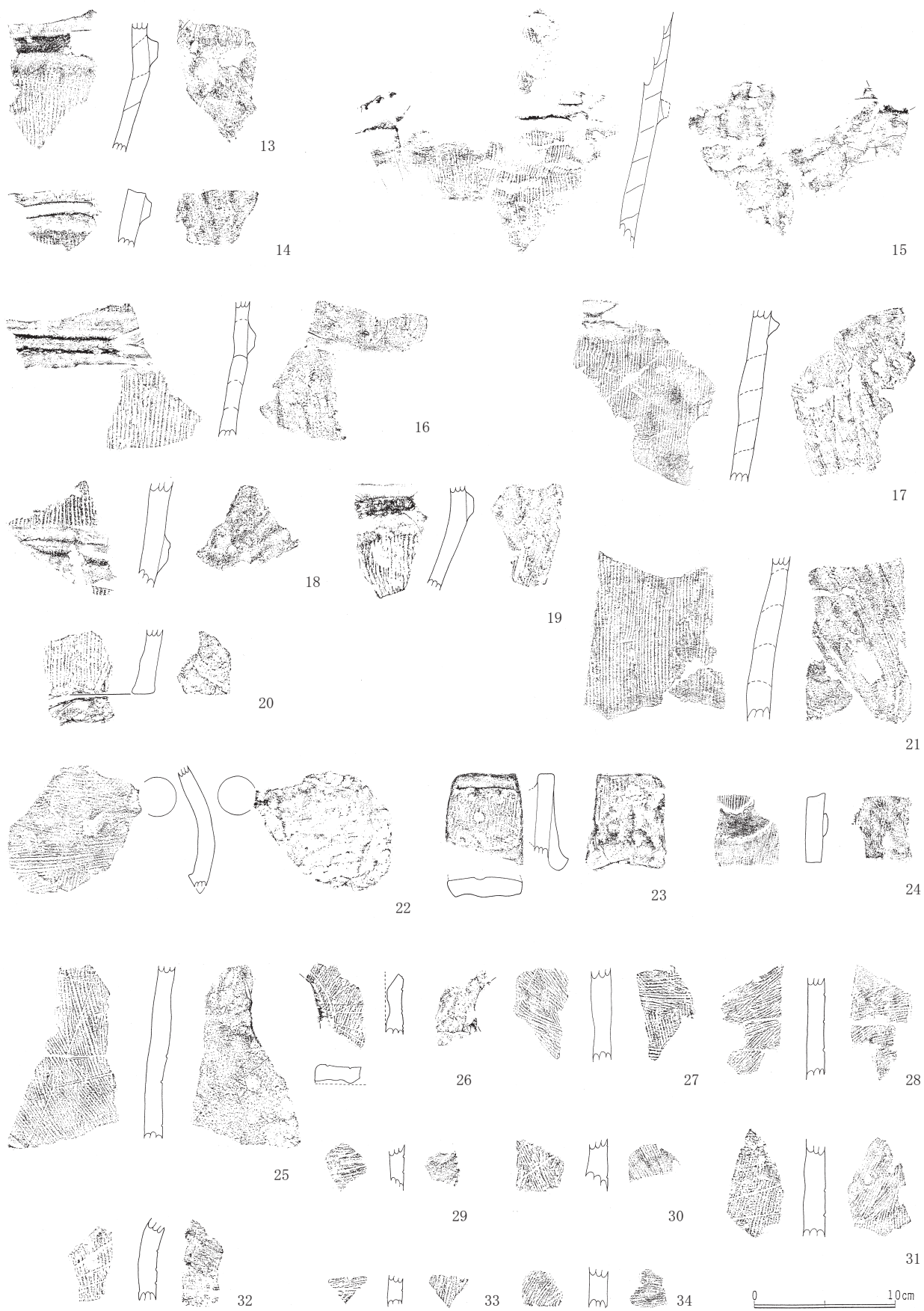
出土遺物は、周溝内の覆土中やC2調査区西側の周溝と第2号溝跡の間から、比較的多くの埴輪の破片が出土している。出土した埴輪は、円筒埴輪のほか形象埴輪の破片もあり、特に円筒台部を用いる翳形埴輪・靱形埴輪・太刀形埴輪などの可能性がある破片が比較的多く見られる。

第192号墳出土遺物観察表

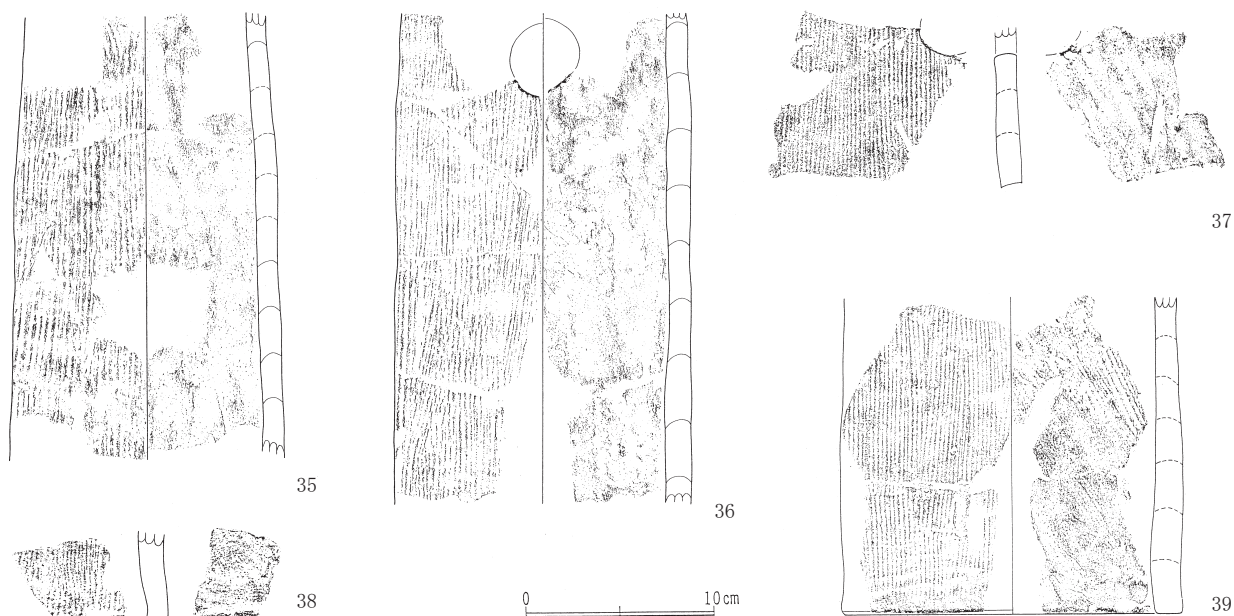
1	円筒埴輪	A．口縁部径(28.6)。B．粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C．外面縦ハケの後、口縁部・突帯部ヨコナデ。内面ナデの後上半ハケ。D．赤色粒、白色粒。E．内外一淡茶褐色。F．1/4。G．2条突帯3段校正と思われ、2段目に円形の透孔を持つ。H．周溝覆土中。
2	円筒埴輪	A．口縁部径(23.0)。B．粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C．外面縦ハケの後、口縁部・突帯部ヨコナデ。内面ハケ。D．赤色粒、白色粒。E．内外一明茶褐色。F．1/4。G．口縁部外面に篋描による直線的な線刻あり。突帯下に透孔あり。H．周溝覆土中。
3	円筒埴輪	B．粘土紐積み上げ。C口縁部。内外面ハケの後ヨコナデ。D．赤色粒、白色粒。E．内外一暗茶褐色。F．破片。G．口縁部外面に篋描による直線的な線刻あり。突帯下に透孔あり。H．2区西側。
4	円筒埴輪	B．粘土紐積み上げ。C．口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。D．赤色粒、白色粒。E．内外一暗茶褐色。F．破片。G．口縁部外面に篋描による直線的な線刻あり。突帯下に透孔あり。H．2区西側。



第12图 第192号填出土遗物（1）

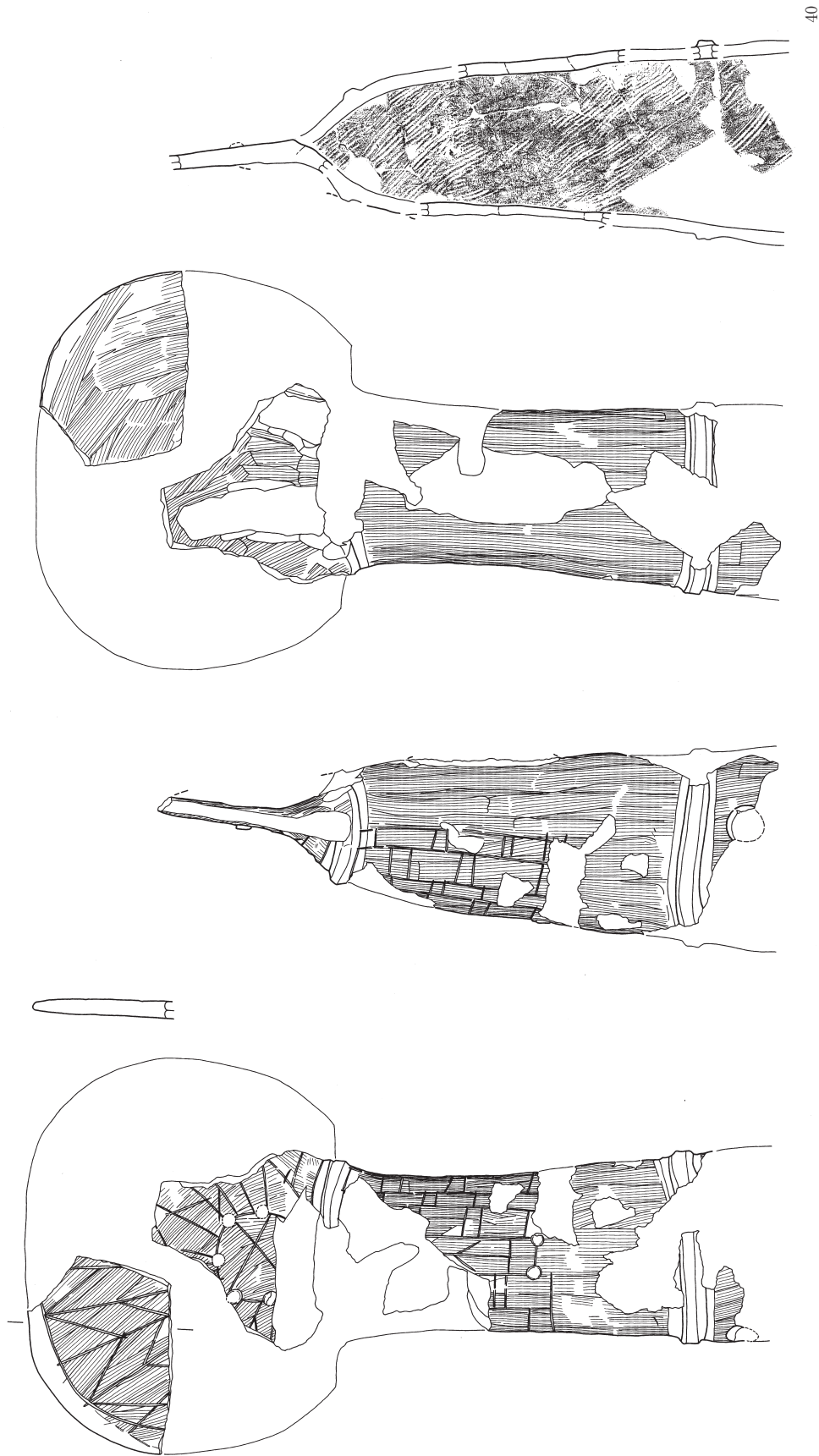


第13图 第192号填出土遺物 (2)



第14図 第192号墳出土遺物 (3)

5	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 突帯下に透孔あり。H. 周溝覆土中。
6	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 突帯下に透孔あり。H. 周溝覆土中。
7	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ナデの後ハケ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/4。G. 突帯下に円形の透孔あり。H. 周溝覆土中。
8	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 突帯上に透孔あり。H. 周溝覆土中。
9	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ナデの後、ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 突帯上に透孔あり。H. 2区西側。
10	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ナデの後、下半刀子ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 破片。G. 突帯上に透孔あり。H. 周溝覆土中。
11	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 突帯上に円形の透孔あり。H. 周溝覆土中。
12	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ハケの後、下半刀子ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 突帯上に透孔あり。H. 周溝覆土中。
13	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。H. 周溝覆土中。
14	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。H. 2区西側。
15	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一暗橙褐色。F. 破片。G. 突帯上に透孔あり。H. 周溝覆土中。
16	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 破片。G. H. 周溝覆土中。
17	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ハケの後、刀子ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒、小石。E. 内外一明茶褐色。F. 破片。H. 周溝覆土中。
18	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗赤褐色。F. 破片。H. 2区西側。
19	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後、突帯部ヨコナデ。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。H. 周溝覆土中。
20	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面指ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 破片。H. 周溝覆土中。
21	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ。内面ナデの後、部分的にハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。H. 2区西側。



第15图 第192号墳出土遺物（4）

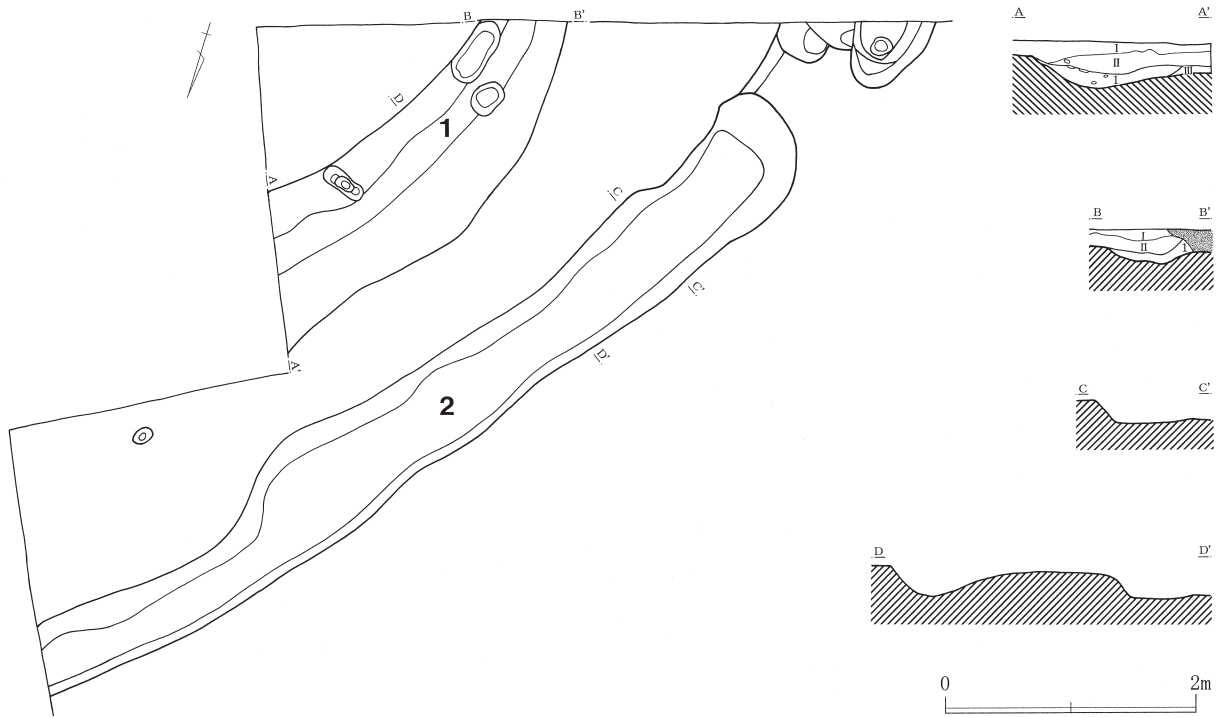
22	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ。内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一暗褐色。F. 破片。G. 破片右端に透孔、下端に面取りの痕跡あり。動物埴輪の顔と思われる。H. 2区西側。
23	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ハケの後ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 太刀形埴輪か?。H. 2区西側。
24	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、海綿骨針。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 外面に紐表現の粘土貼り付けあり。靱形埴輪か?。H. 2区西側。
25	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後、篋描沈線による直線文様を施す。内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 内面剥離顕著。翳形埴輪。H. 周溝覆土中。
26	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後、篋描沈線による放射状の文様を施す。内面剥離。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 破片右側透孔あり。No25と同一個体の可能性が高い。翳形埴輪。H. 周溝覆土中。
27	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後、篋描沈線による直線文様を施す。内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. No25と同一個体の可能性が高い。翳形埴輪。H. 2区西側。
28	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後、篋描沈線による直線文様を施す。内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. No25と同一個体の可能性が高い。翳形埴輪。H. 2区西側。
29	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後、篋描沈線による直線文様を施す。内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. No25と同一個体。翳形埴輪。H. 周溝覆土中。
30	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後、篋描沈線による直線文様を施す。内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. No25と同一個体。翳形埴輪。H. 周溝覆土中。
31	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後、篋描沈線による直線文様を施す。内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 破片。G. 翳形埴輪。H. 2区西側。
32	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後、篋描沈線による放射状の文様を施す。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. No25と同一個体の可能性が高い。翳形埴輪。H. 周溝覆土中。
33	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケの後、篋描沈線による直線文様を施す。内面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. No25と同一個体。翳形埴輪。H. 2区西側。
34	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. No25と同一個体の可能性が高い。翳形埴輪。H. 周溝覆土中。
35	形象埴輪	A. 最大径 14.4、残存高 23.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/2。G. 円筒台部。H. 周溝覆土中。
36	形象埴輪	A. 最大径 (15.6)、残存高 26.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面指ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/3。G. 透孔をもつ。円筒台部。H. 周溝覆土中。
37	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 透孔をもつ。円筒台部。H. 2区西側。
38	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 円筒台部。H. 周溝覆土中。
39	形象埴輪	A. 底部径 (18.0)、残存高 16.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ。内面上半ハケ、下半ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/8。G. 円筒台部。H. 2区西側。
40	形象埴輪	残存高 (58.0)、本体部幅 (31.0)、円筒台部径 15.3。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 本体部内外ハケの後端部ナデ。円筒部外面ハケ、内面ハケの後部分的なナデ。D. 赤色粒、黒色粒、チャート。E. 内外一明褐色。F. 本体部 1/3、円筒部 2/3。G. 翳形埴輪。本体部と円筒部の表面に線刻の文様と円形貼付文を施す。裏面に剥離痕。台部上端に径3cm弱の円形の透孔をもつ。H. 2区西側、周溝覆土中。

第2節 溝 跡

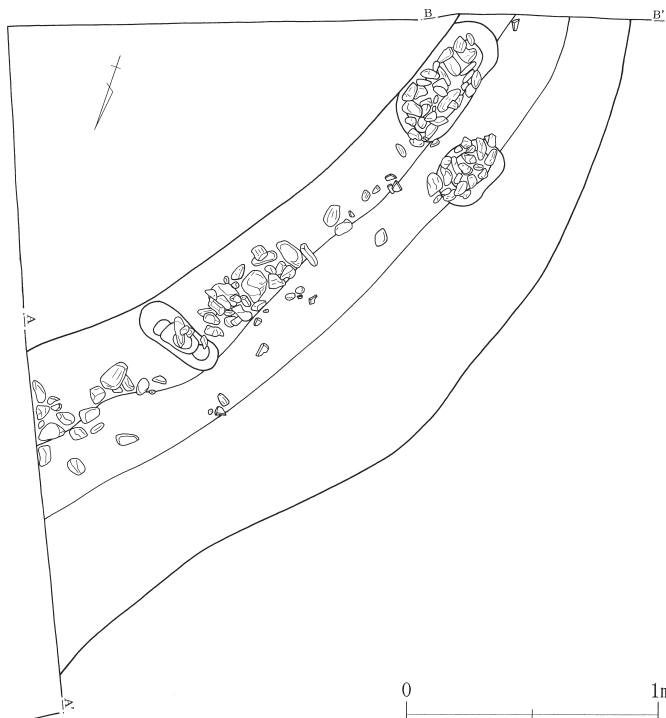
第1号溝跡(第16図、図版6)

C地点2区の南端に位置し、北側には第2号溝跡が概ね平行して位置し、さらにその北側には第192号墳の周溝がある。本溝跡は、弧状の形態を呈しており、おそらく開墾によって第2号溝跡よりさらに南側の第192号墳の墳丘裾を削って畑を広げた際の、畑と墳丘との境に位置する根切り溝の可能性が高いと考えられる。

溝の上幅は最大で1.05mあり、確認面からの深さは25cm程度である。壁は、両側とも緩やかに立ち上がっている。底面は、狭く細かな凹凸があり、やや丸みを帯びている。覆土は、浅間山系A軽石



第1・2号溝跡土層説明



第Ⅰ層：暗灰褐色土層（As-Aを非常に多く、径2mmのマンガン粒子を均一、径2mmの小石をまばらに含む。しまりは強いが、粘性は弱い。）

第Ⅱ層：暗褐色土層（As-Aを微量、径1mmの小石を少量、径2mmのマンガン粒子を均一、径3mmのマンガンブロックと径1cmのロームブロックをまばらに、径1mmのローム粒子を微量含む。しまり、粘性ともやや弱い。）

第Ⅲ層：土層説明なし。

第Ⅰ層：暗灰褐色土層（As-A、ローム粒子、径1cmのロームブロックを少量、径2mmのマンガン粒子、径3mmのマンガンブロックをまばらに含む。しまり強く、粘性あり。）

第16図 第1・2号溝跡

を含む暗灰褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から多量の石と少量の埴輪片が出土している。石は、溝中に穴を掘って埋めたものもあるが、大半は第192号墳の葺石に使われていたものと思われ、埴輪の破片も第192号墳から混入したものと推測される。

本溝跡の時期は、覆土中に浅間山系A軽石を含むことから、近世後半以降の所産と考えられる。



第17図 第1号溝跡出土遺物

第1号溝跡出土遺物観察表

1	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面縦ハケ、突帯ヨコナデ。内面ナデの後ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 破片。H. 覆土中。
2	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面縦ハケ、突帯ヨコナデ。内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 破片。G. 破片下端右側に透孔あり。H. 覆土中。
3	形象埴輪	B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面縦ハケ、突帯ナデ。内面指ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 破片。H. 覆土中。

第2号溝跡(第16図、図版6)

C地点2区の南端に位置し、南側には第1号溝跡が概ね平行して位置し、北側には第192号墳の周溝がある。本溝跡は、南側の第1号溝跡と同様に、第192号墳の埴丘裾を削って畑を広げた際の、畑と埴丘との境に位置する根切り溝の可能性が高いと考えられる。

溝の上幅は最大で95mあり、確認面からの深さは最高で20cm程度ある。壁は、両側とも直線的で緩やかに立ち上がっている。底面は、比較的広く、全体的に細かな凹凸が見られる。

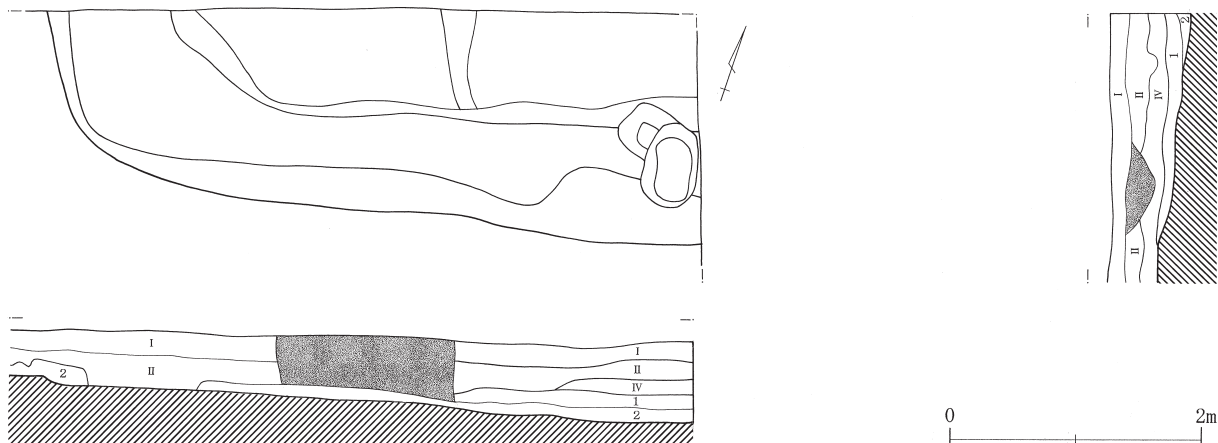
出土遺物は、覆土中から少量の石が出土しただけである。本溝跡の時期は、不明である。

第3号溝跡(第18図、図版7)

C地点2区の北端に位置し、南側には第192号墳の周溝跡が近接し、北側には埴丘が現存する第62号墳がある。本溝跡は、耕作による削平が著しく、また調査区内ではその一部が検出されただけであるため、その形態等は不明である。

溝の上幅は、調査区内では最高1.75mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高20cmある。底面は、広く平坦で、全体的にやや大きな凹凸が見られる。

出土遺物は、覆土中から近世の美濃瀬戸窯系の陶器片が1片出土しただけである。本溝跡の時期は、出土遺物から近世以降の所産と考えられる。



第18図 第3号溝跡

第3号溝跡土層説明

- 第1層：茶褐色土層（径0.5cmのローム小ブロック、マンガン粒子、ローム粒子を少量含む。しまり、粘性ともにやや弱い。）
- 第2層：茶褐色土層（径1cmのロームブロックを均一、径1.5cmのロームブロックを少量、ローム粒子、マンガン粒子をやや多く含む。しまり、粘性ともに強い。）



第V章 ま と め

今回の長沖古墳群久保地区C地点の調査では、古墳の周溝跡と考えられる遺構が3箇所検出されている(第190号墳・第191号墳・第192号墳)。これらの古墳は、いずれも墳丘がすでに削平されていたため、その存在が不明であったものである。それぞれの古墳の形態を円墳としてその位置関係などを概ね第3図のように推測したが、言うまでもなくこれは形態や規模とも確かな根拠に基づくものではない。また、C地点の調査区南側に隣接する現在の環状1号線の敷地内に存在した古墳の正確な位置も不明であり、特に第18・19号墳と第191号墳との正確な位置関係は、残念ながら現在検討できないため、今後の調査の進展を待たざるをえない状況である。C2地点の北側に隣接し、現在も墳丘が一部残存する長沖62号墳は、すでに後世の耕作によって古墳の周溝は削平されたようで、その南側の調査区内では長沖62号墳の周溝の痕跡は見られなかった。

検出された3基の古墳の中で、第190号墳と第191号墳は出土遺物が少ないため不明であるが、第192号墳は周溝内や古墳の墳丘側と考えられるC2地点の調査区西側から、埴輪の破片が多く出土しており、埴輪を伴う古墳である可能性が高いと思われ、これらの円筒埴輪や形象埴輪が墳丘部に樹立されていたのは確実であろう。時期は、出土した円筒埴輪や翳形埴輪の特徴から、概ね古墳時代後期の6世紀後半頃と考えられよう。

<参考文献>

- 大熊 季広 (2003) 『長沖古墳群Ⅳ』 児玉町文化財調査報告書第37集
(2004) 『長沖古墳群Ⅴ』 児玉町文化財調査報告書第38集
- 大熊 季広 他 (2002) 『長沖古墳群Ⅲ』 児玉町文化財調査報告書第36集
- 大谷 徹 他 (1999) 『長沖古墳群』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第224集
- 金子 章 他 (1975) 「長沖十兵衛塚古墳の現状」 『いぶき』 7・8合併号 埼玉県立本庄高等学校考古学部
- 恋河内昭彦 (1984) 「児玉町長沖古墳群の第7次調査」 『第17回遺跡発掘調査報告会発表要旨』 埼玉考古学会他
- 恋河内昭彦・大熊季広 (2006) 『長沖古墳群Ⅵ』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第2集
- 塩野 博 (2004) 『埼玉の古墳〔児玉〕』 さきたま出版会
- 志村 哲 (1998) 「関東の器財埴輪」 『第12回企画展 器財はにわの世界』 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
- 菅谷 浩之 他 (1980) 『長沖古墳群』 児玉町文化財調査報告書第1集
- 鈴木徳雄・尾内俊彦 (2007) 『長沖古墳群Ⅶ』 本庄市遺跡調査会報告書第14集
- 高橋 克壽 (1992) 「器財埴輪」 『古墳時代の研究』 第9巻 古墳Ⅲ 埴輪 雄山閣
- 谷井 彪 (1991) 「長沖157号墳」 『古墳詳細分布調査概報』 1 埼玉県教育委員会
- 松澤 浩一 (2006) 「長沖古墳群金屋南地区B地点の調査」 『児玉郡市文化財担当者会会報』 第6号 児玉郡市文化財担当者会

写 真 图 版



久保地区C1 地点調査区遠景（西より）



久保地区C1 地点調査区全景（東より）



久保地区C2調査区全景（南東より）



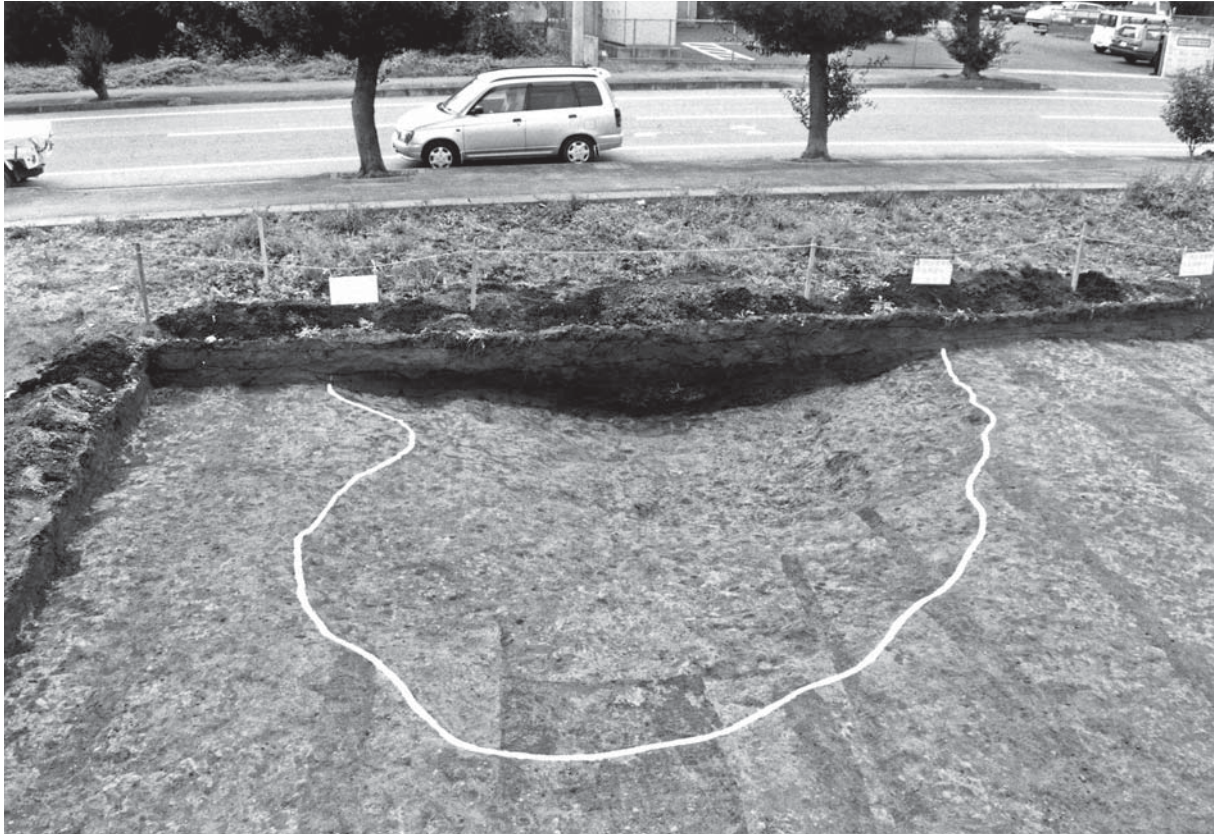
久保地区C2調査区全景（西より）



第190号墳周溝跡（北より）



第190号墳周溝跡（南より）



第191号墳周溝跡（北より）



第191号墳周溝跡炭化材・焼土出土状態



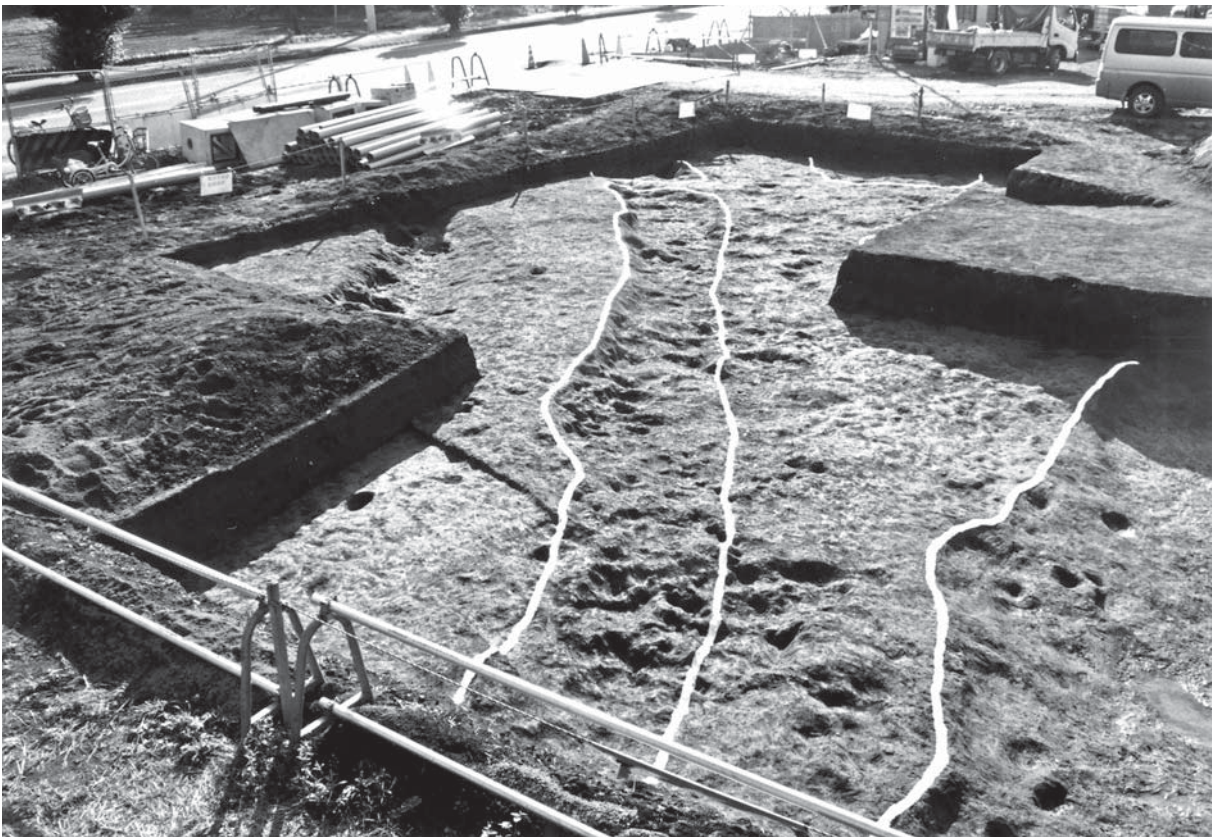
第192号墳周溝跡（西より）



第192号墳周溝跡（東より）



第1号溝跡



第2号溝跡



第3号溝跡



金屋小学校児童見学風景



1



1



2



2



7



7



第 192 号噴出土埴輪 (1)



8



8



15



15



35



35

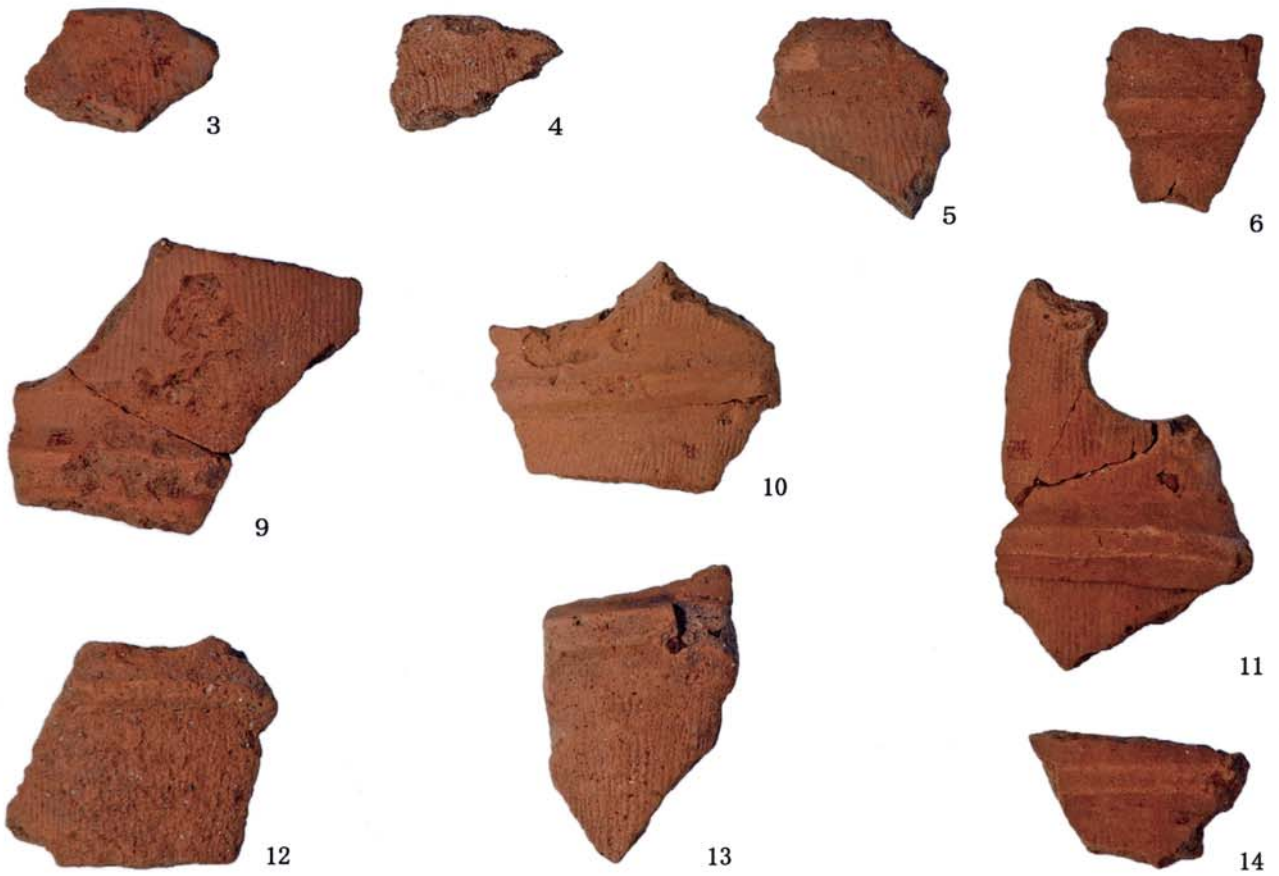


36

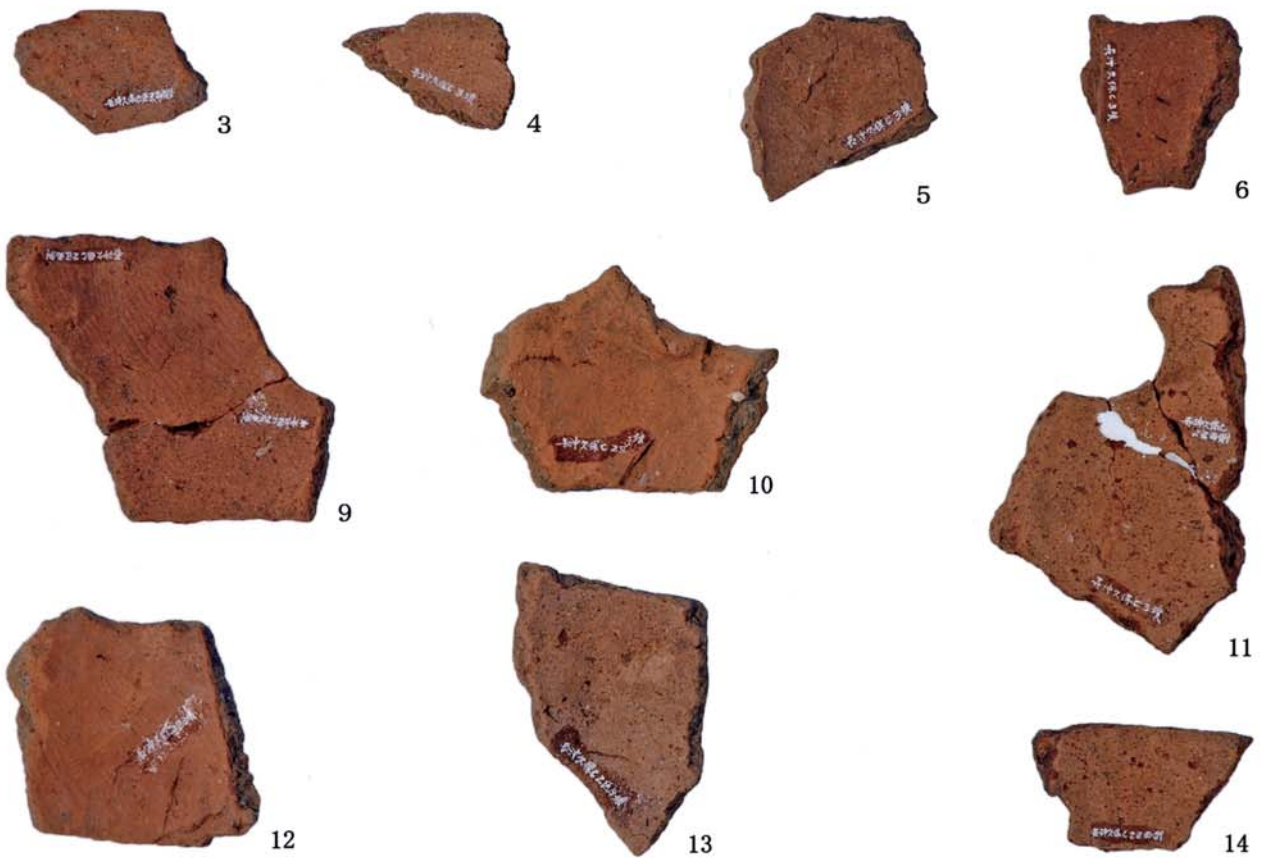


36

图版 10



第 192 号噴出土埴輪 (3) : 表



第 192 号噴出土埴輪 (3) : 裏



第 192 号噴出土埴輪 (4) : 表



第 192 号噴出土埴輪 (4) : 裏

图版 12



第 192 号噴出土埴輪 (5) : 表



第 192 号噴出土埴輪 (5) : 裏

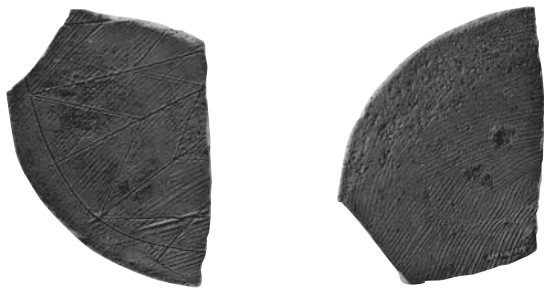
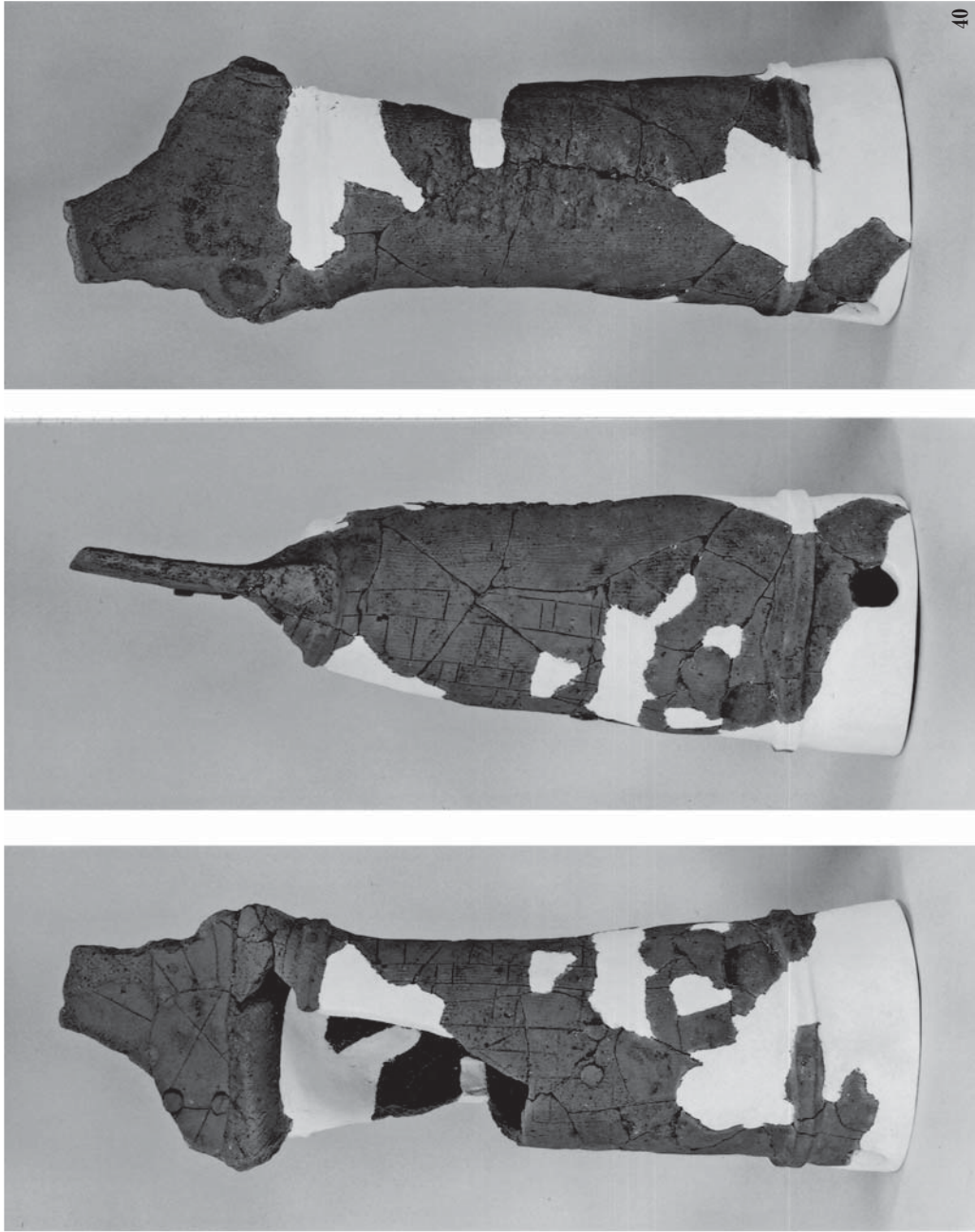
図版 13



第 192 号噴出土埴輪 (6) : 表



第 192 号噴出土埴輪 (6) : 裏



第192号墳出土埴輪（7）

图版 15



第 190 号噴 - 1



第 1 号溝跡 - 1



第 190 号噴 · 第 1 号溝跡出土埴輪：表



第 190 号噴 - 1



第 1 号溝跡 - 1



第 1 号溝跡 - 2



第 1 号溝跡 - 3

第 190 号噴 · 第 1 号溝跡出土埴輪：裏

報 告 書 抄 録

フリガナ	ナガオキコフンゲンⅧ							
書名	長沖古墳群Ⅷ							
副書名	久保地区C地点の調査							
シリーズ	本庄市遺跡調査会報告書	巻次	第21集					
編著者	恋河内昭彦							
編集機関	本庄市遺跡調査会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号		TEL 0495-25-1185					
発行日	西暦2008年(平成20年)5月30日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード 市町村	遺跡	北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査 面積	調査 原因
ながおきこふんぐん 長沖古墳群 (久保地区C地点)	ほんじょうしこだまちょう 本庄市児玉町 ながおき 長沖284他	112119	53-300	36° 10' 56"	139° 12' 24"	20050926 ～ 20051126	400 m ²	店舗 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
長沖古墳群 (久保地区C地点)	古墳	古墳時代 後 期	周溝跡3		埴輪片			
		近現代	溝跡3		埴輪片			

本庄市遺跡調査会報告書第21集

長 沖 古 墳 群 VIII
-久保地区C地点の調査-

平成20年 5月26日 印刷

平成20年 5月30日 発行

発行／本庄市遺跡調査会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号
(本庄市教育委員会文化財保護課内)

印刷／山進社印刷株式会社